

平成 2 9 年度事業報告書

公益財団法人 北九州活性化協議会

目 次

I. 概 況		P 1
--------	-------	-----

II. 公益目的事業

公1事業

1. “もったいない”を未来に引き継ぐ事業（もったいない総研事業）		P 2
1) 「北九州紙えこっパー」の普及に関する企画・研究の実施		
2) “もったいない”の概念を踏まえたシビックプライドの醸成事業		

2. 産業人材を育成する事業		P 2
1) 北九州地域産業人材育成フォーラム事業		
※（別紙1）参照		

3. 次世代を担う人材を育成する事業		P 3
1) 「北九州の企業人による小学校応援団」事業		
※（別紙2）参照		

4. 都市格（文化力・教育力）を向上する事業		P 3
1) 「1000人の夢寄金」事業		
（1）「1000人の夢寄金」募金事業		
（2）「1000人の夢寄金」助成事業		
（3）広報・プロモーション事業の実施		

5. まちづくり推進事業		P 6
1) まちの活性化推進事業		
（1）「K P E C事業開発研究会」による新しい活動分野の調査・研究		
（2）地域づくりネットワークの構築		
（3）まちづくり事業の支援、協働の実施		
2) まちの活性化に関する情報発信事業		
（1）情報受発信の強化		

公2事業

北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業		P 8
※（別紙3）参照		

1. 組織運営体制の強化
 - 1) 中長期的な組織運営体制の再構築
 - 2) 事務局の事業管理の強化
 - 3) 事業運営体制の整備促進
- 2 財務体質改善の推進
 - 1) 自主財源の開発、研究
 - 2) 寄付金事業の事業化
- 3 会員募集と会員サービスの向上
 - 1) 会員募集の強化
 - 2) 会員サービスの向上
- 4 会議等の開催
 - 1) 評議員会の開催
 - 2) 理事会の開催
 - 3) 執行役員会議の開催

I. 概 況

平成 29 年度の我が国経済は、アベノミクスの推進により、雇用・所得環境の改善が続く中で、緩やかな回復基調が続いている。海外経済が回復する下で、輸出や生産の持ち直しが続くとともに、個人消費や民間設備投資が持ち直すなど民需が改善し、経済の好循環が実現しつつある。

平成 29 年度の実質国内総生産（実質 GDP）成長率は 1.9%程度、名目国内総生産（名目 GDP）成長率は 2.0%程度、消費者物価（総合）は 0.7%程度の上昇が見込まれている。

政府は、持続的な経済成長の実現に向け、「生産性革命」と「人づくり革命」を車の両輪として、少子高齢化という最大の壁に立ち向かうため、平成 29 年 12 月に「新しい経済政策パッケージ」を閣議決定した。

北九州地域においても、経済環境は緩やかに拡大基調を保っているが、雇用情勢においては、有効求人倍率が 1.39 倍(H29.9 前年比+0.12 ポイント)と引き続き改善しているものの、地元企業の雇用環境は逆に非常に厳しい環境を現出している。北九州市の 5 歳階級別転入、転出の差は、20 歳～29 歳でマイナス 1278 人（H27.10-H28.9）となっており、若者の転傾向は拡大傾向を呈している。

平成 29 年度の K P E C 事業は、産学官の連携強化による人材育成で、全国的な評価を得ている「北九州地域産業人材育成フォーラム事業」、北九州市立小学校全 131 校を対象にして進める「北九州の企業人による小学校応援団事業」の拡充と地域システム化、各種関連イベントの企画による寄付環境づくりを進める「1000 人の夢寄付金事業」の拡充を図った。また、「もったいない総研事業」については、「えこっパー」の更なるブランドの浸透と普及活動を推進した。

指定管理事業である北九州イノベーションギャラリー（K I G S）については、設立 10 周年を迎え、産業人材育成フォーラムと連携した事業の地域展開の推進を図りながら、北九州市の産業・技術継承とものづくり人材の育成という目的の実現に向けた体制づくりを行った。

また、経営体制及び事務局運営体制については、K P E C 設立の原点に立ち戻り、地域活性化における事業の再評価を行い、今後の KPEC の運営の方向を見定めた経営体制および事務局体制の再構築を行い、経営健全化のための財務体質の改善等を進めた。

平成 29 年度の事業実施状況は以下のとおりである。

II 公益目的事業

公1事業

北九州市域の活性化に関する調査・研究を行うとともに、行政及び関係団体と活性化施策の総合的な調整を行うことによって、北九州地域の発展に寄与することを目的とした事業

平成29年度は、以下の事業を実施した。

1 “もったいない”を未来に引き継ぐ事業（もったいない総研事業）

K P E Cの創立10周年事業として創設した「もったいない総研」の運営理念を踏まえた、新しい事業について、「もったいない総研事業検討会」を編成して方向性を検討し、新規事業の事業化に向けた研究を行った。

1) 北九州紙「えこっパー」の普及に関する企画・研究の実施

本年度は、北九州市（環境局）と大分製紙(株)と「えこっパー推進会議」を編成し、北九州市の環境政策とタイアップした『ていたんプリントえこっパー』のブランドアップと普及・拡販を推進した。

具体的には、北九州を拠点とする地元企業に「えこっパー」の開発意義と商品の優位性を理解いただき、工場・事務所への採用活動を行い、(株)安川電機、TOTO(株)、地元銀行の北九州本店や本部ビル等について、平成30年度より順次切り替えを行っていくこととなった。

また、北九州市では、環境政策とタイアップしたモニター活動やエコ活動の景品に「えこっパー」を採用し、市民への「えこっパー」のブランドアップと普及・拡販を推進した。

2) “もったいない”の概念を踏まえたシビックプライドの醸成事業

本年度は、シビックプライドのコンテンツ（「北九州市民財産（仮称）」）として、関係団体と連携し、近現代建築物の保存・継承等のファシリティマネージメントの視点からの研究を実施した。

2 産業人材を育成する事業

1) 北九州地域産業人材育成フォーラム事業

「産業人材育成支援委員会」を編成し、「高度人材育成プログラム事業」「社会人育成プログラム事業」「青少年育成プログラム事業」及び「産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備事業」を実施し、産学連携による産業人材育成システムの構築に向けた企画開発と事業実施を行った。

事業報告の具体的な内容は、「平成29年度北九州地域産業人材育成フォーラム事業報告書」（別紙1）の通り

3 次世代を担う人材を育成する事業

1) 「北九州の企業人による小学校応援団」事業

義務教育支援委員会を編成し、北九州市内小学校131校を対象に、出前授業、教員研修及びPTA活動促進支援事業を実施した。

また、北九州市立小学校の教育支援に関する協定書（平成25年4月1日締結）に基づき、北九州市教育委員会及び（公財）北九州活性化協議会との三者調整会議を開催した。

事業報告の具体的内容は、「平成29年度北九州の企業人による小学校応援団事業報告書」（別紙2）の通り

4. 都市格（教育力・文化力）を向上する事業

1) 「1000人の夢寄金」事業

都市格（教育力・文化力）の向上を図ることを目的として、教育および文化分野における市民活動へ助成する「1000人の夢寄金」事業を継続実施し、第6回助成事業を行った。

（1）「1000人の夢寄金」寄付募集事業

① 法人・団体会員に対する寄付金額の見直し

一口3,000円を基本とした寄付を地道に集めていく「一般募金部会」のうち、法人・団体会員に対する寄付金額を一口10,000円に設定し、平成30年1月より推進開始。新規会員および既存先増額により合計40件、467千円（3月31日現在）の申込みを受け付け、さらに推進継続中。

② 預金口座引落しによる寄付募集

・第2回引落日 平成29年10月20日（金）

・引落件数41件 金額245千円

寄付金の新たな受入れ方法として平成28年から地元金融機関4行に取引のある寄付者の預金口座引落しによる寄付金の募集を開始した。今後も口座振替による募集を推進する。

※参考：平成28年第1回目引落件数20件、金額148千円

③ 寄付金受け入れ体制の運営

i) 寄付金優遇税制を活用できる体制の構築

公益財団法人の特例要件を生かし福岡県より税額控除に係る証明を取得し、寄付金控除に対応できる体制を整備し継続中。

ii) 寄付金受け入れ体制の維持

個人からの寄付に対して、郵便専用口座開設とあわせて銀行専用振込用紙を制作し対応中。

iii) 寄付金預金口座引落し取扱い取組

預金口座引落しによる寄付金の定期的な受入れを継続中。

iv) 寄付金の毎年徴収の推進

平成30年1月既存寄付先に対し年度分寄付の督促を行い徴収率の向上を図った。

v) 大口寄付金受入れ体制の構築

通常の基本的な寄付以外に香典返し、バザー売上、その他大口寄付金の受入れ体制を構築した。

④ 寄付金受入れ方法の多様化推進

具体的な目標を持った「P（プロジェクト）募金部会」の運営体制を協会した。

i) 北九州発のリサイクルトイレットペーパー・北九州紙「えこっパー」（平成13年より販売開始）を製造・販売している大分製紙株式会社より、1000人の夢寄金へ、200千円を寄付いただいた。
（平成29年8月4日贈呈式開催）。

ii) 第4回1000人の夢寄金 チャリティーゴルフコンペ開催

- ・日 時：平成29年11月1日（水）
- ・場 所：若松ゴルフ倶楽部
- ・参加人数：当日81名参加
- ・チャリティー寄付金額：243千円
- ・事業主体：（公財）北九州活性化協議会

iii) 第2回1000人の夢寄金 チャリティーバザー クラフト・チクチク開催

- ・日 時：平成29年10月27日（金）、28日（土）
- ・場 所：北九州まなびとESDステーション
- ・来場者数：2日間延べ300人以上
- ・チャリティー寄付金額：269千円

vi) 「縞縞（しましま）のシマウマ」「時々（ときどき）ヨコシマなカバ」の販売開始

チャリティーバザー クラフト・チクチクから派生した、小倉織の端切れ生地から創りだす縫いぐるみ「縞縞のシマウマ」「時々ヨコシマなカバ」を小倉 縞縞本店（小倉北区大手町）にて平成29年4月より正式に販売開始した。

製造元はボランティアグループ・シマウマ組（現在二十数名の地元で活動する女性有志）。販売価額3,900円（税抜き）＜うち3,000円を1000人の夢寄金事務局へ寄付、900円は縞縞本店販売手数料＞。平成29年度寄付実績は133頭分、寄付金額399千円にのぼった。

⑤ 平成29年度 寄付金募集実績

第6期（平成29年4月から平成30年3月まで）の寄付金募集実績

- ・寄付者数：148名（累計件数：延べ1,097名）
- ・寄付金額：総額2,041千円（累計金額10,499千円）

※参考：過去の寄付金実績

（単位：千円）

年 度	種 別	H24	H25	H26	H27	H28	H29
一般寄付	基本寄付 （法人・個人）	1,975	1,498	1,739	583	832	860
〃	法人1万円会員	—	—	—	—	—	70
P 寄付	チャリティゴルフ	—	288	264	—	261	243
〃	チャリティバザー	—	—	—	—	218	269
〃	寄付ぐるみ	—	—	—	—	—	399
〃	えこっパー	—	—	—	—	200	200
大口寄付	香典返し	—	—	—	—	600	—
入 金 額 合 計		1,975	1,786	2,003	583	2,111	2,041

(2) 「1000人の夢資金」活動資金助成事業

① 1000人の夢資金 助成事業審査委員会の継続運営

1000人の夢資金の趣旨に沿って公正性を持った審査を行うため、7名の審査員で構成する助成事業審査委員会を運営するとともに、審査委員会運営規定に規定する審査方法および審査基準に則り、厳正な審査体制を維持した。

② 助成先の募集と選定

平成29年10月から平成30年9月を事業対象期間として、平成29年7月に1ヶ月間、第6回助成先の募集を行った。10事業の応募に対して1000人の夢資金審査委員会の審査を経て、総額1,500千円の助成金を下記9事業に決定・配分した。

【第6回 助成先9事業】

助 成 先	助成金額 (千円)	事 業 名	事 業 概 要
MOA美術館 北九州児童作品展 実行委員会委員長 半田 譲二	100	MOA美術館北九州児童作品展	児童作品展開催事業 日頃、子どもたちが取り組んでいる創作活動を奨励することで「生命を尊ぶ心」「心ゆたかな人間」形成を目的としている。
生き方のデザイン研究所 代表理事 岡 昌子	150	子どもたちが主体的に生きる力を育む 「生き方のデザイン授業」	自分ができることは何かを考え、自ら社会に貢献できる、自己肯定感を高め、自尊心や自立心を育てることを目標とする。自己実現のための目標達成ツールとして「ドリーム・マップ授業」を採用し、新たな方法と視点から取り組んでいる。
到津の森からの会 幹事長 小田 剛	300	到津の森開園15周年記念 黒田征太郎氏絵本作成	到津の森公園15周年記念事業 黒田征太郎氏の絵本4,000部製作。2,000部は新たに動物サポーターになってくれた子ども達に、残り2,000部は恵まれない子供たち（今回は特に朝倉で記録的水害の被害にあった子どもたち）に贈る。
平松町アーカイブ 荻野 衣美子	300	～祭りを記録する～ 映像を用いた記録・上映鑑賞ワークショップ、映画制作を行う事業	平松町アーカイブ事業＜第2弾＞アーカイブ事業の図書館（資料庫）を作り住民に開放するなど町民、特に若い年齢層から新しい提案が次々出されており、それに対応する。
NPO 法人 好きっちゃ北九州 入門 真生	150	好きっちゃ北九州！ぼくのまち、わたしのまちを紹介します！～八幡東区平野-小倉南区東朽網～	自分の住む地域に関する学びを通して、子どもたちに郷土愛や大人とのコミュニケーション力を育む教育事業。ひまわり塾 OB が中心となり活動。平成29年4月NPO法人を結成。

助 成 先	助成金額 (千円)	事 業 名	事 業 概 要
カンボジア教育支援プロジェクト アナコット	200	日本・カンボジア文化交流	5 年前からカンボジアの高校（中高一貫校）に教育図書を贈る活動をしている。今回、デバイ高校教諭と学生 2 名を北九州に招待し、カンボジアの現状についての講演会開催および北九州において文化交流を行う。
いのちの授業 大江田 由美	50	いのちの授業 若松高須中学校 赤ちゃんゲスト&妊婦体験	実際に 10 組の赤ちゃんとお母さんを学校に招待し、中学生に対するいのちの授業を実施する。生命力を直接感じ、あらためて自分の存在価値を見直し、自己肯定感を高める。この活動を通して、いじめや自殺を減少させていく。
児童福祉法に基づく放課後等 デイサービス事業 NPO 法人 子ども未来 理事長 神原 みゆき	100	児童福祉法に基づく放課後等デ イサービス事業	発達障害児童用、運動玩具・大型ブロック購入<第 2 弾>。他の子どもたちと一緒に身体を動かすことで、運動能力の向上、コミュニケーション能力の向上に効果を発揮する。
島ミュージカルプロジェクト 実行委員会 北九州実行委員長 今村 貴子	150	北九州市-周防大島 島ミュージカルプロジェクト	北九州市を中心に活動するダンサー、シンガー、パフォーマー等と周防大島の住民とが協力し、オリジナル・ミュージカルを製作、発表する。北九州の若者たちの活動についてメディアを通して発信していく。

（３） 広報・プロモーション事業の実施

① 広報ツールの作成及び広報の実施

i) 「1000人の夢寄金」ホームページ及び facebook の活用

専用ホームページおよび facebook による広報を行うと共に、助成先各事業活動（第 6 回助成先 9 先）のうち 8 先を既に取材済み。トピックスをタイムリーに掲載・発信した。

ii) メールングリストの活用

メールングリストの登録を進め、1000人の夢寄金メルマガ配信先の増加に努めた。

② Web 投票の試行

申請のあった助成先を対象として一般から広く助成事業に対する意見を求める Web 投票第 2 回目の試行。
次年度も継続実施の予定。

まちづくり推進事業

1) まちの活性化推進事業

(1) 「K P E C事業開発研究会」による新しい活動分野の調査・研究

北九州市（産業経済局）が推進してきた、技術伝承活動の支援事業である「北九州マイスター」（「産業振興に貢献した方」又は「産業の発展に欠かせない方」の中より、技能が極めて優秀であり、当該職種における国内の第一人者）及び「北九州技の達人」（北九州で長年にわたり技能の研鑽、後進の育成に努め、優れた技能で産業振興や市民生活の向上に貢献している技能者）に関する技能伝承活動関連事業について、北九州市から当協議会に認定事業および活用事業を移管することとした。（平成 30 年度より活動）

当協議会のネットワーク（企業会員、産業人材育成フォーラム、小学校応援団、1000 人の夢寄金、北九州イノベーションギャラリー）を活用することにより、「マイスター」「達人」の技術・技能の秀逸さをより多くの市民に認知いただき、北九州市域の企業・学校等への技術・技能の継承および支援活動、イノベーターの養成等の活用について、地域システムとして構築を推進する。

(2) 地域づくりネットワークの構築

① 北九州地域経済団体連携フォーラム事業の運営

北九州市内の経済団体による「北九州地域経済団体連携フォーラム(事務局：KPEC)」を編成し、各種の情報の共有と事業運営における連携、協働の環境づくりを実施した。

当協議会からは、地元北九州の唯一のプロサッカーチーム『ギラヴァンツ北九州』の支援・応援を呼びかけ、各団体も同意することとなった。

③ 地域づくりネットワークへの参画

「地域づくりネットワーク福岡県協議会」の北九州ブロック代表幹事として、同協議会主催の研修会・交流会等に参画し、北九州市域の地域づくり団体との橋渡し役を果たした。

(3) まちづくり事業の支援、協働の実施

① 北九州ミュージックプロムナードの支援

平成 8 年に K P E C の提唱で企画、開催され、北九州市民参加交流型の音楽フェスティバルとして定着している「北九州ミュージックプロムナード実行委員会」に参画し、運営を支援した。

② 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

ビクターズ・インダストリーを民間主導で推進する「北九州市にぎわいづくり懇話会」（平成 19 年に設置）において、企画調整委員会（委員長：城水副理事長）へ参画し、にぎわいづくり認定事業において、『関門海峡キャンドルナイト 2017』をはじめ、18 事業を認定し支援を行った。

2) まちの活性化に関する情報発信事業

(1) 情報受発信の強化

K P E C の運営趣旨と活動及び地域活性化に関する各種情報を地域に伝えることを目的に機関紙の発行及びホームページの運用を行った。

① K P E C ニュースの発行

K P E C の運営及び事業を、K P E C 会員及び関連団体に広く広報するために、K P E C ニュースを発行した。

（Vol.62 6月発行 発行部数：1000部）

② ホームページの運営

専用ホームページの充実を図り、K P E C 事業活動情報をタイムリーに発信した。

③ メール送信システムの整備

会員企業及び事業関連組織等のメーリングリストの整備を行い、セミナー等事業の円滑な運営に資すると共に、K P E C の地域ネットワークの構築を行った。

公2事業

北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業

北九州イノベーションギャラリー（K I G S）は、北九州地域の「人材」「技術」「産業遺産」の3つの資産を活用し、新たなイノベーションへとつながる（1）人材活用・育成、（2）産業技術の保存継承(技術の知と心の継承)、（3）技術革新(イノベーション)の機会の創出を行い、人・知を結集し、北九州の発展に必要な新産業を生み出すとともに、博物館を媒体とした技術教育を通じ、世界に貢献できる人材の育成を行うことが目的である。

平成29年度は、KIGS 設立10周年、第三期指定管理期間（H27年度～H31年度）の3年目に当たり、H27年度の明治の産業革命遺産の世界文化遺産登録等の、事業環境が変化する中で、計画設定した事業を着実に実施すると共に、「北九州地域産業人材育成フォーラム事業」等との連携を図りながら、新たにものづくり教育・技能教育分野の拡充等の環境づくりを進め、北九州市、地元企業・学校をはじめとした地域関連機関との産学官連携による事業推進を図った。

事業報告の具体的な内容は、「平成29年度北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業報告書」（別紙3）の通り。

Ⅲ. 法人運営事業

1. 組織運営体制の強化

H23年度以降実施してきた事業開発、実施の方向性の確認と事業化の進捗を振り返り、今後に向け、K P E C 創設趣旨と地域における組織的位置づけの再確認を行い、これに対応した組織体制の構築を進めた。

1) 中長期的な組織運営体制の再構築

主要事業の運営体制の確立、財務体質等の経営基盤の改善及び地域におけるKPECの運営環境の改善等を見据え、理事3名の変更等、中長期的な視点を持った組織運営体制の再構築を行った。

2) 事務局の事業管理の強化

KPEC 事業の運営における関係企業との連携環境の構築を図り、当協議会の新規採用案件については、関係企業の雇用延長制度等を踏まえた人材活用環境の開拓を行い、KIGS 管理職1名の採用を実施した。

3) 事業運営体制の整備促進

新しい公共事業として、主要事業の地域における位置づけを確立し、主要事業運営の外部化等の運営体制

の改善、強化を図ると共に、各事業のステークホルダーとの分掌体制の整備促進を図った。

2. 財務体質改善の推進

指定管理事業を含む KPEC の経営管理について、事業運営フレームの改廃、改善及びコスト削減を図ると共に、新しい収入財源の開拓、研究等を進め、中長期的な視点で、経営体質の改善、強化を進めた。

1) 自主財源の開発、研究

主要事業を活用した外部資金活用研究、指定管理等の受託事業の開発など、収支改善、財政基盤強化のための環境調査及び事業企画の研究を行った。

2) 寄付金事業の事業化

「公益財団法人」としての税法上優遇措置の強みを活かし、『KPEC 寄付のお願い』パンフレットを作成し、29 年度より、当協議会賛助会員等へ寄付活動を推進した。

3. 会員募集と会員サービスの向上

1) 会員募集の強化

会員情報の整理を行い、『K P E C パンフレット』を活用して、新規会員募集および賛助会費未納の会員に対し、賛助会費の請求を 2 回実施した。

平成 29 年度賛助会費額：2, 250 千円（会員数 95 名 対前年：▲45 千円減額）

2) 会員サービスの向上

賛助会員に対して、K P E C が実施する各種地域活性化事業への案内、行政や他団体からの講演会開催等の情報提供を行い、会員との協働による地域活性化に務めた。

4. 会議等の開催

定款等に基づき、所定の会議を開催した。

1) 評議員会の開催

- ・定時：平成 29 年 6 月 22 日
- ・臨時：平成 30 年 2 月 26 日

2) 理事会の開催

- ・第 1 回定時：平成 29 年 6 月 13 日
- ・第 2 回定時：平成 30 年 2 月 13 日
- ・第 1 回臨時：平成 29 年 6 月 22 日

3) 執行役員会議の開催（月 1 回）

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| ・第 1 回：平成 29 年 4 月 26 日 | ・第 2 回：平成 29 年 6 月 2 日 |
| ・第 3 回：平成 29 年 7 月 31 日 | ・第 4 回：平成 29 年 8 月 30 日 |
| ・第 5 回：平成 29 年 10 月 3 日 | ・第 6 回：平成 29 年 11 月 17 日 |
| ・第 7 回：平成 29 年 12 月 20 日 | ・第 8 回：平成 30 年 1 月 24 日 |
| ・第 9 回：平成 30 年 2 月 22 日 | ・第 10 回：平成 30 年 3 月 13 日 |

北九州地域産業人材育成フォーラム

平成 2 9 年度事業報告書

I 概 況

H29 年度の国内経済を見ると、H24 年 12 月から始まった景気拡大の長さが、高度成長期の「いざなぎ」を超えて戦後 2 番目になり、国内総生産(GDP)は 7 四半期連続でプラス成長が続いている。

また、日経平均株価はバブル崩壊後の高値を更新し約 26 年ぶりの水準を回復、有効求人倍率はすべての都道府県で 1.0 倍を超え、4 月には 1.48 倍と 43 年ぶりの高水準を記録した。それに伴い、完全失業率は 3%を下回り、働きたい人がほぼ仕事に就ける「完全雇用」の水準にまで達した。

一方、政府は H29 年度の経済成長率の見通しとして、実質国内総生産(GDP)の成長率を 1.5%、名目国内総生産(GDP)の成長率を 2.5%とする方針を出し、日銀も「緩やかな回復基調を続けている。」という景気判断を継続している。

このような環境変化の中、北九州地域の経済動向は、自動車を中心に高水準で推移している輸出をはじめ、企業収益が改善する中で設備投資も増加し、有効求人倍率も 1.39 倍(H29.9)と改善してきた。

しかし、雇用環境の好転は、「地方都市」「中小企業」のリスクを浮き彫りにしており、地元中小企業等の雇用環境は逆に非常に厳しい状況であり、この改善が喫緊の課題となっている。

また、地方創生戦略関連事業が、産学官をステージに他分野で多様な事業展開がなされているが、中長期的な視点での政策性と実効性には課題を残した感がある。

地域経済環境の活性が進む中、「北九州地域産業人材育成フォーラム」は、事業創設 7 年を経過し、各事業プログラムのステークホルダーの連携による地域システムとしての確立に向けた事業の環境づくりが進んだ。

中核事業のひとつである「地域連携型インターンシップ事業」は、大企業を中心とした 1Day インターンシップの多発、マイナビ・リクナビ等のインターンシップビジネス等の外部環境と連携校におけるインターンシップ運営環境の複雑化等の影響を受け、フォーラム事業への学生の参加率低下などの課題も浮上してきた。

一方で、文部科学省の指導もあり、実践能力の育成を目的とする実践型(長期)インターンシップの実施環境づくりも求められている。

また、生産労働人口の減少を踏まえ、生産性向上のための第 4 次産業革命に対応できる中核技術人材の育成が喫緊の課題となっており、社会人育成プログラムの新しい取り組みの方向も生まれている。

こうした環境を踏まえ、H29 年度の産業人材育成フォーラム事業は、H30 年度の事業展開に向けた事業の集約整理を行うと共に、各事業プログラム運営についてはステークホルダーの連携強化を図り、事業の自立的運営のための環境づくりを行い、概ね事業計画を達成した。

(1)高度人材育成プログラム

研修型(短期)インターンシップに加え、実践型(長期)インターンシップの事業化を進め、産学双方のニーズを踏まえた「地域連携型インターンシップ」の拡充と運営環境の構築を行った。

(2)社会人育成プログラム

九工大を中心に進めて来たテクニカルカレッジ等の制度創設を終え、国が進める「リカレント教育の環境整備」への対応等を踏まえた、連携校の環境調査等を実施した。

(3)MBA 活用プログラム

北九大の K2BS マネジメント研究会と連携し、MBA ホルダーを活用した「車座塾」等の実践経営学講座の企画・開発を実施した。

(4)青少年育成プログラム

工学系教育事業の情報サイト“かがたま”の創設等の計画事業を実現するとともに、今後に向けたプロジェクト体制の再構築を実施した。

(5)地域クラスター形成プログラム

地方創生戦略等の環境条件を踏まえたフォーラム事業の持続的発展のための運営環境づくりと、地域システム化を推進した。

II.事業計画の内容

1.高度人材育成プログラムの企画、運営

研修型(短期)インターンシップの拡充を図るとともに、実践型(長期)インターンシップの事業化のための環境づくりを実施した。

1)地域連携型インターンシップ事業の拡充、実施

(1)研修型(短期)インターンシップ事業の実施

「研修型(短期)インターンシップ」の協働企業の拡充と連携校における企業情報の学内広報等のシステムの改正を行い、ビジネスモデルの拡充を推進した。

① 研修型(短期)インターンシップの実施

- ・実施実績企業数：164 社 (H23～H29 年度で 1 回でも実施した企業の総数)
- ・実施率：82.0% (フォーラム対象企業 200 社のうち、164 社で実施)
- ・年度別企業、学生参加状況

＜研修型(短期)インターンシップの実施結果＞

	H29年度		H28年度		H27年度		H26年度		H25年度	
	参加	登録	参加	登録	参加	登録	参加	登録	参加	登録
参加校	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4
参加企業	39	88	53	88	67	95	82	92	72	80
参加学生	65	74	90	103	118	135	137	167	122	153

(2)実践型(長期)インターンシップの実施

「実践型(長期)インターンシップ」について、連携校における環境調整を行い、事業化を推進した。

① 実践型(長期)インターンシップの実施

- ・H29 年度計画企業 20 社中 7 社で、23 名の学生が参加した。一方、新たな取り組みとして H30 年度から北九州高専専攻科 1 年生が実践型(長期)インターンシップを展開することになり、高専・KTSと連携してその準備を進めた。

＜実践型(長期)インターンシップの実施状況＞

企業・組織名	形態	インターンシップテーマ	九工大		北九大	北九州高専
			工学部	情報	経済	
前田機工	業務・課題	開発中のロボットハンドの軽量・コンパクト・コストダウンを目的とした設計実務	1 名			
大光戸材	業務・課題	無機材料の品質向上の提案及び評価	1 名			
ランテックソフトウェア	業務・課題	不動産鑑定アプリケーションの開発研究	1 名			
有菌製作所	PJ・課題	3D プリンター、IoT など新技術の福祉機器分野への転用手法の検討と実証	1 名			
岡野バルブ製造	業務	新事業基盤確立への参画	1 名	2 名	1 名	
メイト黒崎	研究・課題	黒崎メイト屋上スペースの地域センター化に向けたリニューアル	1 名	建設社会 11 名		
北九州イノベーション ギャラリー	業務・課題	KIGS 工房での講習、工作指導訓練				4 名

② 実践型(長期)インターンシップ事業実施企業別・形態別モデルプランの作成

- ・ インターンシップ事業の実施を通じて、事業マニュアル及び事業フローの研究を行い、事業スキームの検討を行った。

(3) インターンシップ実施に関わるビジネスモデルの整備と拡充

- ・ インターンシップ事業の実践を通じて、「地域連携型インターンシップビジネスモデル」の改善と拡充を推進した。

① 大学別インターンシップ推進セミナー(ガイダンス)の実施

- ・ 連携校における「地域連携型インターンシップ」の周知を図るために各大学別インターンシップセミナー(ガイダンス)を実施した。

<大学別インターンシップ推進セミナー(ガイダンス)実施結果>

九州工業大学	北九州市立大学	西日本工業大学	北九州高専
258 名 (245/422 名)	59 名 (97/120 名)	190 名 (260/187 名)	200 名 (205/200 名)

※()内は H28 年度 / H27 年度参加者数

② 大学別インターンシップミーティングの拡充実施

- ・ 学生の地域連携型インターンシップ参加率向上とインターンシップ実施企業のニーズの把握を目的に大学別インターンシップミーティングを開催した。

<大学別インターンシップミーティングの実施結果>

会 場	開催日	学生数	企業数	参加大学
北九州市立大学	H29.5.31	23 名 (24/46 名)	9 社 (9/9 社)	北九大 20 名 九工大 3 名
西日本工業大学 小倉キャンパス	H29.6.17	32 名 (50/51 名)	12 社 (15/16 社)	九工大 12 名 西工大 11 名 高専 9 名

※()内は H28 年度 / H27 年度参加者数

③ 「学生のための北九州ものづくり企業発見ツアー」の実施

- ・ 地域連携型インターンシップ事業と連携して、地元企業の認知向上を目的に、北九州商工会議所の産業観光事業と共催で企業見学ツアー事業を実施した。

<学生のための北九州ものづくり企業発見ツアー実施結果>

実施内容	九工大	北九大	西工大	高 専	早稲田	計
【第1回】H29年8月18日(金) 株式会社セントラルユニ 株式会社安川電機 インバータ工場	6	6	1	0	4	17
【第2回】H29年9月12日(火) TOTO 株式会社 小倉第一工場/小倉第二工場 石川金属工業株式会社	7	4	1	0	2	14
【第3回】H29年9月21日(木) 株式会社マツシマ メジャテック 黒崎播磨株式会社 株式会社東洋電機工業所	1	1	0	0	3	5
合 計	14	11	2	0	9	36

2)地域連携型インターンシップ事業運営体制の整備と拡充

(1)地域連携型インターンシップの位置づけと実施環境の改善

- ・様々なインターンシップが実施される中で、教育を目的とした「地域連携型インターンシップ」の実施意義を関係者で確認し、連携校、受け入れ企業、事務局が三位一体になった事業運営システムの確立を図った。

(2)地域連携型インターンシップの企画研究・運営体制の整備

① 研修型(短期)インターンシップ連携校運営コンソーシアムの運営と運用

- ・研修型(短期)インターンシップの実効性ある運営を行うために、連携校の学務担当部門及びキャリアセンターで組織するコンソーシアムを編成し、事業の運営環境の改善を実施した。

〈参考：協議事項抜粋〉

- ・インターンシップコンソーシアム関係者のアンケート調査と研修事業の企画、開発
- ・学部2年生のインターンシップ参加対応の検討、及びツールの決定
- ・地域企業情報の学内提供方法の検討とツールの作成(ベストワン企業情報誌の作成)
- ・学生のインターンシップ参加率向上を目的とした情報提供システムの研究
- ・連携校における地域連携型インターンシップの制度的取扱いに関する環境づくり
- ・H30年度の連携校合同企業説明会開催計画の決定

② 実践型(長期)インターンシップ運営研究プロジェクトの編成と運用

- ・連携校の教員及び事業実施企業関係者による「実践型(長期)インターンシップ事業研究ワーキング」を編成し、実践型(長期)インターンシップの事業化に向けた協議を実施した。

3)地域連携型インターンシップ事業のプロモーションの実施

(1)「地域連携型インターンシップガイドCD(改訂版)」の作成

- ・実践型(長期)インターンシップ等の追加により、「地域連携型インターンシップ」事業の形態が多様化したため、個々の事業運営マニュアル整備を先行することにし、ガイドCDの改定作成は実施しなかった。

(2)地域連携型インターンシップの事業環境の改善のためのプロモーション事業の実施

- ・関係先への「地域連携型インターンシップ」事業の周知を図り事業の実施基盤の拡充を目的として、地域の経済団体や業界団体等での事業説明等を実施した。

① 北九州地域経済団体連携フォーラムにおけるプロモーションの実施

- ・北九州地域の7経済団体が連携して連携事業を実施する北九州地域経済団体連携フォーラムで事業説明を行い、各団体との連携の環境づくりを実施した。

② 福岡県人材育成産学官コンソーシアムへの参画

- ・福岡県の「福岡県産業人材育成コンソーシアム」構成組織として、県内大学等との情報交流を実施した。

2. 社会人育成プログラム事業の企画、運営

- ・中堅、中小企業の中核専門技術人材のスキルアップ、リカレント教育を目的に、地域大学の制度環境を活用した「社会人育成プログラム」の企画、実施した。

1) 中堅・中小企業の中核技術人材育成に向けた環境開発

(1)北九州ドクターチャレンジプログラムの事業化推進

- ・フォーラム事業の協働企業200社へ、九州工業大学の社会人プログラムパンフレット等の配布を行うとともに、北九州テクノサポートによる勧誘広報を実施した。(三島光産3名実施：H29年度終了)

(2)北九州テクニカルカレッジ事業の事業化推進

- ・九州工業大学の学術支援制度改定(H28 年度)を踏まえて、九工大産学連携推進機構と連携し、北九州テクノサポートによるフォーラム事業協働企業へのプロモーションを実施した。

2)中堅・中小企業の経営・管理者育成を目的とした環境開発

- ・北九州市立大学大学院マネジメント研究科(K2BS)と連携して、経営管理者の経営力強化を目的とした事業の企画・運営を行った。

(1)「MBAサテライトフォーラム」の企画・実施

- ・北九州市立大学大学院マネジメント研究科(K2BS)の公開講座型から、K2BS の機能を活用した企業の中核人材のスキル向上プログラムへの企画内容の変更を行い、事業計画の編成を行った。(H30 年度実施)

(2)MBAホルダーによる白熱講座の企画、実施

- ・製造業の経営者、技術者である MBA ホルダーによる「技術系学生のための経営実践講座」のモデルカリキュラムを作成し、九工大大学院におけるコース導入について調整を実施。(H31 年度に制度化)

(3)ケーススタディメソッドによる中小企業の経営研究講座の実施

- ・北九大 K2BS の教員による「経営継承」「新事業創造」等をテーマとした地元中小企業の経営分析を実施し、企業経営者、管理者を対象にケーススタディメソッドによる実践経営研究会(車座塾)を開設し、社会人起業大学九州校と連携した事業の地域化を図った。

<車座塾実施結果>

	研究者	テーマ	サポーター	参加者
第1回 18.1.31.	K2BS 教授 鳥取部 真己	新事業創造のできる人材とは？ (一橋大学ビジネスレビュー論文)	K2BS 教授 城戸、高橋	19 人
第2回 18.3.16.	K2BS 教授 高橋 秀直	産学連携で新事業創造は可能か？ (アステック入江金メダルプロジェクト)	工学部教授 大矢 K2BS 教授 城戸	16 人

3. 青少年育成プログラム事業の企画、運営

- ・産学協働による早期工学教育の地域システムの創設に向けた環境づくりを行うと共に、「北九州産業技術保存継承センター(KIGS)」と連携して、各種の事業開発・研究及び実証事業実施した。

1)ものづくり教育の在り方に関する研究会(仮称)の編成に向けた環境づくり

(1)青少年育成プログラム研究プロジェクトの再編

- ・「ものづくり教育の在り方に関する研究会(仮称)」のワーキング機能として位置づける青少年育成プログラム研究プロジェクトの再編を行った。

2)理工系ものづくり教育関連事業の情報共有化と展開を目的としたソリューション機能の構築

(1)「北九州地域科学・工学教育情報マップ“かがたま”」の運営、管理

- ・早期工学教育関連事業の情報共有化と積極的展開を目的とした WEB サイト「北九州の科学の玉手箱 “かがたま”」をリリース、運用を開始、小中学校等関係機関による活用促進を図った。

3)地域におけるものづくり教育のコンテンツ開発に向けた試行事業の企画・実施

(1)ものづくり教育モデル事業の企画、開発の実施

- ・北九州イノベーションギャラリーと連携して、ものづくり教育事業の企画開発と運営ノウハウの実証的研究を行い、産学連携による早期工学教育のコンテンツづくりを推進した。今年度は特にデジタル工房機能の活用拡大、展開と地域の企業や大学と連携したプログラム開発を推進した。

① **デジタル技術の進展を踏まえたものづくり教育開発の実施**

- ・KIGS デジタル工房の活用促進と既存の枠に囚われない工作体験プログラムの開発・実施

② **北九州地域の産学機能を活用したものづくり教育の開発と環境づくりの実施**

- ・九州工業大学サークルや北九州ものづくり光継会(ものづくり中小企業組織)など、地域と連携したワークショッププログラムを企画、実施した。

4)産業人材育成フォーラム関連企業による教育支援事業の開発・実施

(1)「北九州の企業人による小学校応援団」事業と連携したものづくり教育の実施

- ・「北九州の企業人による小学校応援団」と連携し、フォーラム登録企業等によるものづくり教育・キャリア教育のための出前講座を実施した。

(2)ものづくり教育推進の企画・開発の実施

- ・中学2年生を対象とした2日間の職場体験事業のものづくり企業での実施に向けて、北九州ものづくり光継会と協働で環境づくりを実施した。

4. 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

- ・北九州市の「まち・ひと・しごと創生戦略」や「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC プラス)」等の地方創生戦略との連携を促進し、フォーラム事業の政策的位置づけを強化すると共に、地域の経済団体等との連携の促進を図った。

1)フォーラム事業の地域システム化に向けた環境づくりの推進

(1)フォーラム事業の連携校の拡充

- ・フォーラム事業の地域システム化に向けて、フォーラム事業に未参画であった産業医科大学(環境マネジメント学科)(H30 年度より)、早稲田大学(H31 年度より)のフォーラム事業参画に向けた調整を実施した。

(2)フォーラム事業協働企業の会員化の推進

- ・企業会員の募集と組織化については、インターンシップ参加学生数及び企業のマッチング数の減少等があり、環境を立て直した上で、H30 年度に組織的な募集活動を実施することとする。

(3)フォーラム事業の拡充と事業化に対応した運営体制の改変

- ・実践型インターンシップ事業や MBA 活用プログラムの事業化等を踏まえて、関係する事業プロジェクトの新設及び再編成を実施した。

(4)地方創生戦略等と連携したフォーラム事業の展開

① **「地方創生インターンシップモデル事業」の活用による**

- ・北九州市による「地方創生インターンシップモデル事業」を活用し、第4次産業革命対応をテーマとした「実践型(課題解決型・長期)インターンシップ」実施に関する事前調査と企画検討を行い、H30 年度実施に向けた環境づくりを推進した。

② **北九州・下関まなびとぴあ(COC+)と連携した合同説明会の計画の編成**

- ・H29 年度に開催した第1回 産業人材育成フォーラム合同企業説明会の実施結果を踏まえて、事業の継続

に必要な雇用動向調査、及び関係者調整を実施し、H30年度の開催計画を策定した。

5. フォーラム協働企業の雇用機会創出支援事業の実施

1) 第1回 産業人材育成フォーラム合同企業説明会の企画・開催

- ・ 産業人材育成フォーラムと地元雇用促進を目指すCOC+事業と共催で、中堅、中小製造企業への就職機会創出を目的にフォーラム事業協働企業と連携校による企業説明会を企画、開催した。

この結果、2名(九工大工学部1名、北九大国際環境工学部1名)が協働企業の採用が成った。

- ・ 開催日：H29年6月27日
- ・ 会場：西日本総合展示場 新館3F 会議室 C/D
- ・ 出展企業：26社 (採用試験実施：12社 / 採用決定：2社)
- ・ 主催：北九州地域産業人材育成フォーラム、北九州・下関まなびとびあ

2) フォーラム事業の広報システムの構築とプロモーション事業の実施

(1) 「北九州地域産業人材育成フォーラム」専用ホームページの拡充

- ・ 事業プログラムごとの専用情報を体系的に編成し、産業人材育成の専門情報機能としてのフォーラムホームページの活用促進を図った。

3) 各種関連調査及び統計の実施

- ・ フォーラム事業の実施評価、及び関連事項のトレーサビリティ確保のために、インターンシップ関係、就職関係等、フォーラム事業に関連する各種調査及び統計を実施した。

(1) 各種関連調査及び統計の実施

① インターンシップ関係調査・統計

〈大学・学生対象〉

- ・ 地域連携型インターンシップ実施前学生の意向調査(全大学：関係学部全学生)
- ・ 地域連携型インターンシップ参加意向学生の意向調査(全大学 IS ミーティング学生)
- ・ 地域連携型インターンシップ実施後学生の意向調査(全大学：IS 実施学生)
- ・ 連携大学、高専におけるインターンシップ実施状況調査(全大学：全学部)
- ・ 学生のための企業発見ツアー実施状況調査(バスツアー参加学生)

〈企業対象〉

- ・ 地域連携型インターンシップ実施前企業の意向調査(IS ミーティング参加企業)
- ・ 地域連携型インターンシップ実施企業の事業実施後状況調査(IS 実施全企業)
- ・ 地域企業におけるインターンシップ実施状況調査(実施企業選抜)

② 就職率関係調査・統計

- ・ 連携大学、高専における地元就職状況調査(全大学：全学部全学科別)
※ 地域連携型インターンシップ参加学生の地元就職状況調査(全大学：全学部)

以上

H 29 年度 北九州地域産業人材育成フォーラム 決算

単位:千円

	項 目	H29 予算額	H29 決算額	増減	内 訳
収 入	1)負担金	5,700	5,700	0	
	①北九州市	4,700	4,700	0	
	②北九州活性化協議会	1,000	1,000	0	
	2)会費	2,700	1,967	▲733	
	①企業会員	1,200	570	▲630	企業負担金@30,000×19 社
	②大学・高専	1,200	1,200	0	大学等会費@300,000×4 校
	③交流会	300	197	▲103	・推進会議 67,000 、 ・実践型運営研究会 130,000
	3)雑収入		60	60	銀行利息、企業見学バスツアー補助
	①預金利息		0	0	
	②企業見学バスツアー補助		60	60	
	4)前年度繰越金	400	434	34	
	【収入合計】	8,800	8,161	▲639	

	項 目	H29 予算額	H29 決算額	増減	内 訳
支 出	1)人件費	240	61	▲179	
	①事務局担当人件費	0	0	0	
	②雑給	240	61	▲179	臨時的雇用職員人件費
	2)謝金	300	0	▲300	
	①専門家謝金	300	0	▲300	
	3)旅費	250	62	▲188	
	①近距離旅費等	100	62	▲38	近距離旅費、市内、遠距離旅費、その他
	近距離旅費	50	43	▲7	
	遠距離旅費	50	0	▲50	
	タクシー利用料	0	19	19	
	②専門家招聘旅費	150	0	▲150	
	4)委託料	5,390	5,416	26	
	①KTS 業務委託	2,160	2,160	0	KTS 業務委託料一式
	②KPEC 業務委託	3,080	3,170	90	KPEC 管理費、人件費一部負担等、業務委託料一式
	③その他業務委託	150	86	▲64	HP修正料等その他業務委託料
	5)その他経費	2,620	2,120	▲500	
	①会場借上げ料	400	91	▲309	会議室利用料
	②印刷費	550	863	313	セミナー配布資料、インターシippパンフレット
	③通信運搬費	120	107	▲13	郵送費・切手代等
	④事務消耗品費	200	147	▲53	事務用消耗品費 等
	⑤会議費	200	65	▲135	会議関係飲み物代 等
	⑥交流会費	330	197	▲133	交流会経費
	⑦使用料及び賃借料	800	636	▲164	工場見学バス代、事務局関係諸費
	⑧雑費	20	13	▲7	振込手数料 等
	【支出合計】	8,800	7,659	▲1,141	
	次年度繰越金	0	502	502	

北九州の企業人による小学校応援団

平成 2 9 年度事業報告書

I 支援事業の推進

1 支援対象校の拡大

年次目標に基づき、支援対象校を100校（平成28年度）から131校に拡大し、市内全公立小学校が支援対象校となった。

2 支援事業の継続実施

1) 出前授業・研修の継続実施とテーマの拡大への取り組み

講師企業等の協力を得て、児童への出前授業、教職員・保護者（PTA）向けの研修等を実施した。

- ① 実施件数（小学校応援団への申込分）

212件（28年度 203件）

※申込み学校数：80校。

- ② 出前授業・研修のテーマ数

延べ120件（28年度 106件）

2) 親学の推進、PTA活動への支援

- ① 親学推進

平成29年3月、小学校応援団としての親学のテーマや普及活動について検討するため、有識者による親学研究会を設置し、これまで6回の会議を行い、テーマについて取りまとめを行った。今後は普及方策について具体的に検討を進めていくこととする。

また、保護者（PTA）に対して、子どもとのコミュニケーションのポイント等に関する研修を行った。

- ② PTA総会、学校開放週間への参加促進

関係団体（小学校応援団、PTA協議会、小学校校長会）の連名でPTA総会への参加について、小学校応援団参加協力企業に対して保護者である従業員への呼びかけを依頼した。

またすべての小学校を通じて直接保護者に呼びかけを実施。更には学校開放週間への参加についても、参加協力企業に対して保護者である従業員への呼びかけを依頼した。

3) 小学校に対する小学校応援団事業のPRの推進

- ① 平成29年度における出前授業や研修の利用を促進するため、新年度前の2月に、28年度の利用実績（テーマごとの利用状況（利用数、利用学校名））、29年度のテーマおよびシステムの利用方法等を、全小学校に送ってPRした。
- ② 出前授業・研修を利用した小学校からの感想等をまとめた資料も送付し、利用者の生の声とその効果について伝えた。

3 小学校長との意見交換会の実施

小学校応援団の支援活動をより実りあるものとして継続実施できるようにするためには、学校現場の意見を直に聞きながら活動を進めることが重要である。

平成29年度も昨年に引き続き、小学校長との意見交換会を実施した。

① 参加者

- ・校長 市小学校長会長及び各区から校長1名（計8名）
- ・市教育委員会 指導部長、主幹ほか（計3名）
- ・小学校応援団 代表、副代表、企画委員会正副委員長、委員（計5名）

② 出された意見等

- ・複数の企業のテーマが一覧表になっているのでセレクトしやすく、またネットで申込みの簡単である。
- ・講師が専門分野の人なので子どもたちは楽しみにしている等評価する意見が多かった。
- ・テーマのメニューは多いが、わかりにくい。
- ・4月末が申込み期限であるが、担任に意見を聞くのもっと余裕が欲しい。

⇒ 平成30年度は、これら意見を参考にし、改善を行う。

4 広報活動

1) 関係団体等を通じた広報

- ① 幹事団体等（北九州商工会議所、北九州中小企業経営者協会、北九州貿易協会、西日本工業倶楽部、北九州青年会議所、北九州青年経営者会議ほか）を通じた広報活動を実施した。

※平成29年度：1200部のパンフレットを作成、配布

- ② K P E Cニュースでの広報
- ③ ロータリークラブでの卓話・パンフレット配布（計3団体）
- ④ ホームページに28年度の活動内容を追加した。

（内容）小学校応援団の設立経緯、役員構成、参加協力企業、各年度の活動紹介、応援団への参加や講師就任のお願い等

2) メディアを活用した広報

平成29年10月にR K Bテレビで小学校応援団の活動が放映された。

5 支援事業管理システムの充実

1) 学校と事務局との情報共有システムの改良

平成 27 年に支援事業の活用と運営管理を円滑・効率的に行うことを目的に、支援事業の申込みから実施、報告に至るまで、各学校と事務局等が情報を常に共有できるよう、パソコンによるシステムを開設した。

今年度も、使う側にとって、システムの使い方や手順等がもっと分かりやすく、より使い勝手の良いようにシステムの改良を行った。

II 支援体制の整備

1 参加協力企業等の拡大に向けた取組み

幹事団体のご協力により、各会員企業の入会を募り、昨年度 261 社から今年度、439 社となり、大幅に増加した。

2 学校担当コーディネーターによるサポート体制の充実

小学校をサポートし、事務局と小学校との間をつなぐ架け橋として支援事業の周知と進捗状況の管理等を主に行うコーディネーターは、支援対象校の拡大に伴い、シニアネット北九州及び夢追塾（同窓会）の協力により増員し、サポート体制の充実を図った。

（H28年度：19名→H29年度：21名）

また、定期的にコーディネーター会議を行い、学校への対応に関する認識や情報の共有等を図った。

3 三者調整会議の開催

小学校応援団の支援事業の現状について共通認識を図るとともに、方針に関する調整等を行うため、北九州市立小学校の教育支援に関する協定書（平成25年4月1日締結）に基づき、北九州市教育委員会及び北九州活性化協議会との三者調整会議を開催した。

北九州の企業人による小学校応援団 平成２９年度決算

(平成２９年４月１日～平成３０年３月３１日)

収入

(単位 : 千円)

項 目	予算額	決算額	摘 要
負担金	5,500	5,500	＜負担金拠出額＞ 北九州市 4,500 北九州活性化協議会 1,000
利息			* 20円
計	5,500	5,500	

支出

項 目	予算額	決算額	摘 要
支援事業費	700	659	講師謝金等
コーディネーター 業務費	1,350	1,345	費用弁償等
広報・プロモーション 推進費	1,150	1,306	パンフレット作成等広報費、ホ ームページ・システム改良費等
企画管理費	1,400	1,296	企画管理業務
事務局経費	900	894	通信運搬費、交通費、消耗 品費、事務室等使用経費等
計	5,500	5,500	

北九州イノベーションギャラリー（産業技術保存継承センター）

平成 2 9 年度事業報告書

【施設概要】

- ◆ 施設名称 北九州産業技術保存継承センター
北九州イノベーションギャラリー（KIGS）
- ◆ 所在地 北九州市八幡東区東田 2 丁目 2 番 11 号
- ◆ 施設概要 敷地面積 2.4ha 延床面積 約 3,100m²
本館（年表のギャラリー、企画展示場、プレゼンテーションスタジオ他）
工房棟（金属加工設備、木工加工設備、3D-CAD/CAM）
- ◆ 指定期間 平成 27 年 4 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日

I. 事業概要	1～ 4
II. 教育普及事業	5～15
III. 企画展示事業	16～18
IV. 調査研究事業	19～20
V. 図書・映像等の収集、制作、公開事業	21～23

I. 事業概要

北九州イノベーションギャラリー(以下「KIGS」)の施設管理・運営については、公益財団法人北九州活性化協議会(以下「KPEC」)が第三期指定管理者として、平成27年4月から単独にて5年間の施設管理・運営を受託。その3年目となる平成29年度については、下記の基本方針のもと各種事業を精力的に展開すると共に、官営八幡製鐵所の世界文化遺産登録の紹介とあわせて、当地固有の歴史的風土と、そこに蓄積してきた「人材」「技術」「産業遺産」の3つの資産を活用し、企画展の開催や市民セミナー・見学ツアー等様々なイベントを意欲的に実施した。

◆地域において培われた産業技術とその心を継承する。

日本が先進工業国へと成長する過程で、北九州は数多くの技術革新を経験し、技術・技能やこれらを支える経営・管理ノウハウなど膨大な知見を蓄積してきた。これらの財産を可能な限り調査し、保存・継承に努める。また、世界遺産を始めとする産業遺産の展示等を通して日本の近代化を支えたまち「北九州」への誇りとものづくりへの興味につなげる。

◆イノベーションを促進する環境を整え、イノベーターを育成する。

優秀な技術者、熟練技能者、デザイナーおよび大学の研究者などと連携し、技術動向やデザインなどの情報を提供するとともに、産学官の技術交流の場を提供することで、産業技術に対して幅広い視野を有し、知識融合等によるイノベーションを推進しうる人材の養成に取り組む。また、社会人再教育として、実践に必要な幅広い基礎知識の強化に取り組む。

◆次世代イノベーターを育成する。

産業技術や基礎科学の重要性について、青少年の理解を高め、技術やデザインへの探究心を育む。

◆技術者OBの経験を活かす。

北九州市には、技術革新に関わった技術者が多く在住している。彼らの経験を活用し、技術の知と心の継承を行う。

◆多様なネットワークを構築する。

地域の企業および大学等高等教育機関のみならず、内外の博物館や研究機関と連携することで、高度な専門性を確保しつつ、サービスの内容や質の向上を図る。

◆固有の価値・魅力を発信する。

「イノベーションをテーマにした国内唯一の施設」としての当施設の独自性、魅力を高め、それを内外に発信していく。

【主な活動概況】

1 教育普及事業

主要講座であるイノベーションフォーラム(年1回)、技術革新セミナー(年2回)、デザインセミナー(年2回)は、若手技術者等新たな顧客層を開拓するため、時代の流れに即したものをテーマに設定し著名な講師を招いて開催した。また、これらの企画にあたっては、国内最先端技術を有する企業の協力やクリエイターにも参画頂き、最先端のイノベーションに関する情報を提供

し、その結果一步踏み込んだ理解と意識改革の醸成をすることが出来た。

世界遺産登録関係では、世界遺産登録にともなう旅行会社の旅行プランへの組み入れ提案などの積極的な働き掛けを継続して行った。

技術革新セミナーでは、本年度は医療分野に関するテーマを取り上げ、「再生医療のインパクト～iPS細胞の現状と未来～」「いのち』をやどす ～不妊克服への挑戦～」を開催し、200名近い参加者を得た。

本年度もKIGSデジタル工房では、企画展連動ミニ体験においてもデジタル工房で製作した部材を利用したワークショップを積極的に実施し、各種プログラムを推進した。

なお、これまでのニーズに合わせたプログラムや地道な誘致活動により、年間教育プログラム参加人数が前年度を上回り、本年度も過去最高値を記録した。

2 展示事業

前年度冬より引き続き「磨き抜かれた職人の技『北九州技の達人』展」を4月2日まで開催し、その後、「木・和・美の技『木創りの道具たち』展」を開催した。夏には、「Dr.伊藤文人のトリックイリュージョン研究所」を開催した。家族で楽しみながら体験出来る仕立てとし好評を博した。秋には、「香りのふしぎ展」を開催した。形のない「香り」や「匂い」の展示ということで話題を呼び、好評を博した。冬には、「地域ものづくりリレー展」として、北九州地区で初の開催となる「未来を見つめる高校生の作品展」～「未来へ広がる企業技術展」～「デザイン×表現の進化」の3テーマを連続して開催した。マスコミにも積極的に取り上げていただくことができた。

また、本年度より次年度の春の企画展を春休みを挟んで開催するように取り組み、3月24日より7月1日まで「～遊ぶ・学ぶ・作る～くらしを包むパッケージ展」を開催している。

3 調査研究事業

委託研究においては、地元技術士会はじめ、地元企業に対し合計2件の調査研究委託を行った。地元企業への委託研究として「『北九州におけるレベル計測技術の歴史と発展』の調査・研究」を(株)マツシマメジャテックに同社の基幹技術である「レベル計測技術」の調査研究を委託し、実施した。また、北九州地区技術士会への委託研究として「『北九州における鍛造技術の歴史と発展』の調査・研究」をミヤタハイメック品質技術研究所に鉄等の金属製品の製造に欠かせない塑性加工技術である「鍛造技術」に関して北九州及び筑豊・直方に位置する企業が長年にわたって培ってきた独自の技術、製品について調査研究を委託し、実施した。

国立科学博物館との共同研究においては、「『金型技術』の系統化調査」として、プレス用金型の中の「モータコア打抜き金型」について実施した。

4 図書・映像の収集及び公開、産業映像の制作

当施設の設立目的に沿った図書及び映像の収集に努めた。また、その公開を積極的かつ迅速に実施することにより、来館者に対して量的・質的向上とサービスアップを図っている他、新着本のホームページでの公開やメールマガジンで紹介するなどライブラリーの利用促進を継続している。さらに、ライブラリー入口にはイベントに合わせて来館者の興味を引く図書を配架している。

また、産業映像の収集について、日本宇宙フォーラムから5作品の寄贈を受けた。

産業映像は、一般市民にも分かり易い技術革新物語として「輝くキタキュウのプロダクツ1～北九州オンリーワン企業物語（約30分）」を制作し、北九州市が認定した「北九州オンリーワン

企業」4社の独自技術、製品を紹介した（日・英・中・韓の4カ国語）。

産業映像の公開は、平成28年度に製作した「鉄の進化を支えた炉材革命」（約26分）について、7月の市民セミナーで取り上げ一般公開した。また、TEPIA先端技術館に寄贈し、同館のビデオライブラリーに登録されインターネット経由で一般視聴できるようにした。

その他保有映像は、当館への訪問団体に向け、個別にプログラムした映像の上映を積極的に行った。

5 貸出スペースの稼働アップや芝生広場の有効利用

“開かれた館”を目指し、多目的かつ有効なスペース提供を通じ、利用者のサービス向上に努めた。

プレゼンテーションスタジオおよび工房利用については、地道に拡大を図った。

「世界一行きたい科学広場」や「KIGS 春のわくわくワークショップまつり」の体験型集客イベントを実施することで、芝生広場の有効利用を図るとともに、来館者の誘引に努めた。

昨年度にオープンしたデジタル工房では、安価に材料等が準備できるようになったため、本年度はKIGSオリジナルの内容でのものづくり教室やワークショップを多数回開催し、夏休み中の小学生中心に多くの利用者を集めることができた。

【成果】

上記の積極的事業展開、活発な広報・集客活動の結果、計画した数値目標は入館者数がわずかに未達であるが、企画展観覧者数と教育プログラム参加者数は達成できた。特に、教育プログラム参加者数は、昨年度に続き過去最高記録を更新した。

◆計画数値目標の達成状況

入館者数	計画 68,000名	実績 66,316名	（計画比 97.5%）
企画展観覧者数	計画 20,000名	実績 20,022名	（計画比 100.1%）
教育プログラム参加者数	計画 13,500名	実績 18,852名	（計画比 139.6%）

【利用者の声に見る主要事業の評価】

当館の運営及び各種事業展開にあたっては、当施設が公共施設としての役割を果たすため、幅広くアンケートを収集し、それらの分析結果を反映することにより、公正公平な満足感の提供を心がける必要がある。本年度収集した利用者の主な声を抜粋・要約のうえ、総括した。

◆施設全般アンケート

利用者の満足度は、98.3%と前年度の92.7%と目標の86%を上回っている。

「駐車場があればよい」という意見と「有料駐車場やスペースワールド駅からの行き方が分かりにくい」という声が散見される。お問い合わせや工作教室への申し込みの際に、有料駐車場を案内するようにしている。さらに、本年度は、案内板や横断幕等を見やすいものにリニューアルした。また、本年度も、「このイノベーションギャラリーを知らせるためにアピールしたらいいと思います」という意見もいただいている。

◆教育普及プログラム参加者アンケート

利用者の満足度は、95.8%と目標の97%にわずかに未達であった。

本年度も全般的にマイナス評価及び致命的な苦情は見当らなかった。

(1)各種講座

技術革新セミナー、デザインセミナー、市民セミナーなどは、企画・対応について概ね好評であった。

引き続き、①講師の声が小さい ②時間が長かった、短かった ③スクリーンの表示が見にくかった 等を含め、物理的に対応できる苦情はフレキシブルに改善している。

(2)ワークショップ、各種イベント

親子工作教室、イノベーションツアー、サマースクールなどの参加型イベントは、企画・運営・料金・対応について概ね好評であり、それぞれリピーターも多い。マンネリ化しないよう、新たにテーマなどを工夫し実施した。本年度の後半は、企画展を開催していない閑散期の土日にもスケジュールし、開催回数を増加させている。

3D プリンタやレーザーカッターなどのデジタル工作機械をメインに活用したワークショップも、非常に好評である。一方、人気であるが故に、予約がすぐに埋まってしまい「もっと参加枠を増やしてほしい」という声を多数いただいている。応募方法等を次年度には改善する。

3D プリンタとレーザーカッターの機材講習会と個人利用を推進している。現在レーザーカッターは 68 名、3D プリンタは 20 名が受講し会員となっている。

(3)団体向けプログラム

また、工房における金属加工体験は社会科見学や修学旅行等の学校団体に好評であり、学校設備ではできない体験ができることへの感謝の言葉をいただいている。

今後は、スペースワールド閉園がどのような影響をもたらすか見ていく。

◆企画展観覧者アンケート

利用者の満足度は、87.0%と目標の 87%を達成した。

来館者傾向を総括すると、「市内在住が 70%から 75.40%、30 歳代以上が 82%から 72.2%、自家用車利用での来館が 72%から 73.4%」と、市外からの一般団体観覧者は減少傾向のままである。10 歳代と 20 歳代の来館者比率は前々年度の状況に戻っており、前年度に比べて 1 割程度増加している。

声としては、

- ・観覧料金については、「高い」という声と「安い」という声が入り混じっており、感じ方の違いということで、このまま見ていく。
- ・体験型や簡単な工作を取り入れた展示に対して高い評価をいただいております、今後の重要なヒントとする。
- ・映像展示については、「いつ本篇が始まるのか分からない」「長い」といった声が散見されるので、今後の展示の際に参考とする。

Ⅱ. 教育普及事業

教育プログラムへの参加者数は目標 13,500 人に対して実績が 18,852 人(目標達成率 139.6%)となり、昨年の開館以来過去最高人数 17,267 人を更に上回る参加数を達成した。目標を大幅に超えることができた要因として①休日のミニワークショップの通年実施、②ものづくりの新たな取り組みである KIGS デジタル工房機能を活用した各種プログラムの推進によるところが大きい。そのうち、②のデジタル工房関連プログラムでは 3,291 名の参加者数を記録、昨年度の 1,609 名からほぼ倍増している。また、デジタル工房会員数は昨年から 33 名増えて 73 名になった。内訳は 3D プリンタ 20 名、レーザーカッター 66 名(ダブリあり)となり、会員数は安定して増加している。

また、技能継承を目的とした北九州マイスター技能伝承クラブとの協業活動も継続実施しており、北九州イノベーションギャラリーに常に北九州マイスターが常駐する体制を構築した。しかし、回数、参加者数という視点ではまだまだ不十分であり、継続して更なる活動強化を図っていく必要がある。

1 フォーラム、企画展連動講話

(1)イノベーションフォーラム

開催日時	内 容	講 師	参加人数
3 月 2 日 15:00～17:00	テーマ「TOTO の歩みとイノベーション」	清原 正勝/TOTO 株式会社 総合研究所副所長、フェロー	75 名

計 75 名

(2)地域ものづくり未来フォーラム

開催日時	内 容	参加団体	参加人数
3 月 24 日 13:00～17:00	FAB 施設運用者を主体とした ディスカッション ・持続可能な施設運営の手法 ・得意分野を広げるネットワーク づくり	九州大学/ファブラボ山口/ファブラボ佐賀/ ファブラボ阿蘇南小国/ロボコンマガジン/ ファブラボ太宰府/(株)イーケージャパン/ ファブラボ大分/周南市福川中学校/ Next Technology	27 名

計 27 名

(3)企画展連動講演会

開催日時	内 容	講 師	参加人数
第 1 回 4 月 14 日 15:30～16:30	【講演会】「大工道具の歴史と匠の知恵」	赤尾 健蔵/竹中木工道具館館長	98 名
第 2 回 5 月 27 日 14:00～15:30	【講演会】「集いの建築、円いの空間」	中村 好文/建築家	92 名
第 3 回 11 月 25 日 13:00～14:30	【講演会】「香りの世界を楽しむ」	中村 靖子/(株)資生堂	69 名

計 259 名

2 講座、セミナー、技能講習など

(1)技術革新セミナー

開催日時	内 容	講 師	参加人数
第 1 回 7 月 1 日 13:00～14:30	「再生医療のインパクト ～iPS細胞の現状と未来～」	長船 健二/京都大学 iPS細胞研究所 教授	78 名
第 2 回 11 月 11 日 13:00～14:30	「『いのち』をやどす ～不妊克服への挑戦～」	田中 温/セントマザー産婦人科医院 院長	117 名

計 195 名

(2)デザインセミナー&フェア

開催日時	内 容	講 師	参加人数
2 月 17 日 13:30～15:30	デザインセミナー① 「北九州技の達人に見る！デザインのちから」	第一部 岩見 照美(婦人服・こども服う修理) 第二部 坂元 久文(理容)	85 名
3 月 4 日 11:00～12:00 14:00～15:00	デザインセミナー② 「建物色ぬりワークショップ」 二部制	ピー・アンド・エル	24 名

計 109 名

(3)K I G S 市民セミナー

開催日時	内 容	講 師	参加人数
第 1 回 7 月 13 日 13:30～14:30	市民セミナー①「鉄の進化を支えた炉材革命」 第 1 部 映像上映 26 分 第 2 部 関連講話 20 分	佐藤 信博/黒崎播磨(株) 技術管理部 部長	62 名
第 2 回 2 月 3 日 13:00～14:30	市民セミナー② 「西郷隆盛と産業革命」	原口 泉/志学館大学教授	228 名
第 3 回 2 月 11 日 14:00～15:00	市民セミナー③ 「くじらは海のほ乳類」	石川 創/下関海洋科学アカデミー 鯨類研究室長・獣医師	86 名

計 376 名

(4)ものづくりセミナー

開催日時	内 容	講 師	参加人数
第 1 回 6 月 27 日 11:20～12:00	出前講座(小倉工業高等学校) 「安全作業の基本～自校での実習・企業での実習に向けて」	池内 直樹/榊安川電機人事総務部 人事部長	208 名
第 2 回 7 月 28 日 10:00～12:00	出前講座(穴生学舎) 「日本のものづくり産業を育んだ北九州 ～先人に学ぶプロフェッショナル」	鹿毛 浩之/KIGS 館長	40 名
第 3 回 9 月 18 日 10:00～12:00 13:30～15:30	「回路で遊ぼう 電子スズムシ」 参加費 1000 円	九州工業大学 衛星開発プロジェクトメンバー	38 名

計 286 名

(5)北九州マイスターセミナー

開催日時	内 容	講 師	参加人数
第 1 回 8 月 25 日	出前/西日本総合展示場 北九州ゆめみらいワーク 2017 11:00/13:00/15:00 「金属加工(キサゲ加工)」	村上マイスター	11 名
第 2 回 8 月 26 日	出前/西日本総合展示場 北九州ゆめみらいワーク 2017 11:00/13:00/15:00 「金属加工(キサゲ加工)」	村上マイスター	6 名

計 17 名

(6)調査研究報告会

開催日時	内 容	講 師	参加人数
第 1 回 5 月 20 日 13:00～15:00	「北九州における耐火物技術の歴史と発展」	佐藤 信博/黒崎播磨(株) 技術管理部 部長	69 名
第 2 回 9 月 16 日 13:00～15:00	「時計技術の系統化調査」	青木 茂/国立科学博物館 産業技術史資料情報センター 元主任調査員	56 名
第 3 回 1 月 20 日 13:00～15:00	「天然及び合成ゴムの技術的歴史と発展」	西村 伸/九州大学 大学院 工学研究院 教授	61 名

計 186 名

(7)共催イベント(ワークショップ)

開催日	内 容	共催団体名	参加人数
毎月第3土曜計10回	共催シンポジウム 共同研究発表、例会	公益社団法人日本技術士会北九州支部 CPD	385 名
7 月 13 日	北九州メンテナンス技術研究会合同セミナー	北九州メンテナンス技術研究会	21 名
10 月 17 日	共催事業「北九州かがくの玉手箱」	北九州地域産業人材育成フォーラム 西日本工業大学	16 名
12 月 16 日	共催シンポジウム 「歯学と工学と健康」	公益社団法人日本技術士会北九州支部	61 名
12 月 6・13・20 日、1 月 17・24 日	北九州市民カレッジ「見て、聞いて、学ぶ北九州技の達人 I」(計5回)	北九州市生涯学習総合センター	109 名
2 月 4 日	飛行ロボットクラブ	九州工業大学	43 名
3 月 9 日	第二回施設研修会「ソーシャル時代における文化・展示施設の広報、PR作戦」	北九州地区企業博物館ネットワーク	72 名

計 707 名

3 各種ワークショップ、イベント

(1)K I G S (研究)倶楽部

開催月	回数	内容	講師	参加人数
4 月～翌年 3 月	第 1・3 土曜日 計 26 回	「帆船模型倶楽部セーリングシップ」 一般社会人による、正確縮小帆船模型の製作活動	会員活動	563 名
9 月	1 回	「低炭素社会システム研究会」 一般社会人による、低炭素社会システムの研究、発表会	会員活動	8 名

計 571 名

(2)ジュニア向け工作教室

開催日時	内容	参加人数	開催日時	内容	参加人数
6 月 17 日 10:00～12:00 14:00～16:00	「オリジナルランタンを作ろう！」 工房 光継会 参加費:300 円	27 名	8 月 5 日 13:00～17:00	「夏休み親子自由研究教室」 プレゼンテーションスタジオ ～高炉～工房 日本技術士会九州本部 参加費無料	42 名
6 月 17 日 14:00～16:00	「本物の鉄道レールでオブジェを作ろう！」 工房 講師:光継会 参加費:300 円	11 名	8 月 11 日 11:00～16:00	館外 黒崎井筒屋 わくわく課外授業ワークショップ 「モンスターキーホルダーを作ろう」 参加費無料(10円募金あり)	109 名
6 月 17 日 10:00～12:00 14:00～16:00	「実用的なトートバックを作ろう！」 工房 光継会 参加費:300 円	20 名	12 月 17 日 13:00～14:30	「オリジナルスノードーム作り」 デジタル工房 講師:明石友佳/TOTO(株) 参加費:500円	15 名
7 月 30 日 11:00～16:00	館外 小倉 I'm わくわく課外授業 ワークショップ 「モンスターキーホルダーを作ろう」 参加費無料(10円募金あり)	175 名			

計 399 名

(3)企画展連動イベント・ワークショップ

①春企画展「～木・和・美の技～木創りの道具たち」展

開催日	内 容	講師	参加人数
5 月 4 日 10:00～12:00	「かんな削り体験」工房 参加費:無料 *小学生 5 年生以上	削ろう会筑後地方建築技術者組合	52 名
5 月 4 日 13:00～15:00	「かんな削り体験」工房 参加費:無料 *小学生 5 年生以上	削ろう会筑後地方建築技術者組合	23 名

5月20日 13:00～14:00	「小国杉のアロマサシェづくり」 工房 参加費:500円 *小学生親子	穴井木材工場	8名
5月20日 15:00～16:00	「小国杉のアロマサシェづくり」 工房 参加費:500円 *小学生親子	穴井木材工場	5名
5月21日 10:00～12:00	「作ろう！小国杉のうつわ」工房 参加費:2500円 *中学生以上	穴井木材工場	10名
5月21日 13:00～15:00	「作ろう！小国杉のうつわ」工房 参加費:2500円 *中学生以上	穴井木材工場	2名
6月11日 10:00～12:00	「乾漆と木のモザイクブローチ」 工房 参加費:700円 *小学4～6年生親子	FabLab SENDAI-FLAT	12名
6月11日 14:00～16:00	「乾漆と木のモザイクブローチ」 工房 参加費:700円 *小学4～6年生親子	FabLab SENDAI-FLAT	19名
6月18日 10:00～12:00	「寄木のアクセサリづくり体験」 工房 参加費:2500円 *中学生以上	FabLab Kamakura	7名
6月18日 14:00～16:00	「寄木のアクセサリづくり体験」 工房 参加費:2500円 *中学生以上	FabLab Kamakura	8名
7月2日 10:00～12:00	「家をたてよう(ミニ)～杉板で家型の貯金箱を作ろう」 工 房 参加費:1000円 *小学生親子	KIGS 職員	22名
7月2日 13:00～15:00	「家をたてよう(ミニ)～杉板で家型の貯金箱を作ろう」 工 房 参加費:1000円 *小学生親子	KIGS 職員	24名

計 192名

②夏企画展連動(Dr. 伊藤文人のトリックイリュージョン研究所)

開催日	内 容	講師	参加人数
7月22日 13:00～14:00	「トリックイリュージョン(だまし絵)の不思議～お話とミニ工 作」 工房 参加費:150円 *小学生親子	Dr伊藤文人	35名

計 35名

③秋企画展連動(試す・比べる・感じる～「香りのふしぎ」展)

開催日	内 容	講師	参加人数
10月28日 10:00～11:30	「自分だけの香水作り体験」 ワークスタジオB 参加費:1,000円	廣瀬 孝博/調香師、本田 慎紀 (協力:大分香りの博物館)	23名
10月28日 13:00～14:30	「自分だけの香水作り体験」 ワークスタジオB 参加費:1,000円	廣瀬 孝博/調香師、本田 慎紀 (協力:大分香りの博物館)	17名

計 40名

(4)大人の工作教室

開催日	内 容	講師	参加人数
2月24日	14:00～16:00 ワークC「北九州技の達人とつくる～手 づくり！MYミニ屏風」 参加費:1800円	北九州技の達人 表具師 猪ヶ倉 勝盛	3名

計 3名

(5)デジタルものづくり教室

開催日	内 容	講師	参加人数
6月10日 10:00～12:00	時の記念日「レーザーカッターで彫刻、マイイラスト壁掛け 時計を作ろう！」 デジタル工房 参加費:1,500円	KIGS 職員	10名
6月10日 14:00～16:00	時の記念日「レーザーカッターで彫刻、マイイラスト壁掛け 時計を作ろう！」 デジタル工房 参加費:1,500円	KIGS 職員	10名
6月11日 10:00～12:00	館外 九州大学大橋キャンパス「匠と匠の対談」 10:00～11:00 トーク、11:00～12:00 実演 参加費:無料	津田三朗/九州大学芸術工学府 工作工房技術支援係 村上英俊/KIGS	53名
7月22日 10:00～12:00	「硬貨を仕分け！ころころ貯金箱を作ろう」 デジタル工房 参加費:300円	KIGS 職員	18名
7月22日 14:00～16:00	「硬貨を仕分け！ころころ貯金箱を作ろう」 デジタル工房 参加費:300円	KIGS 職員	18名
7月23日 10:00～12:00	「くるくる歯車動くオブジェを作ろう」 デジタル工房 参加費:400円	KIGS 職員	18名
7月23日 14:00～16:00	「くるくる歯車動くオブジェを作ろう」 デジタル工房 参加費:400円	KIGS 職員	16名
7月29日 10:00～12:00	「はらはらビー玉迷路を作ろう！」 デジタル工房 参加費:300円	KIGS 職員	20名

7月29日 14:00～16:00	「はらはらビー玉迷路を作ろう！」 デジタル工房 参加費:300円	KIGS 職員	22名
7月30日 10:00～12:00	「くるくる歯車動くオブジェを作ろう」 デジタル工房 参加費:400円	KIGS 職員	15名
7月30日 14:00～16:00	「くるくる歯車動くオブジェを作ろう」 デジタル工房 参加費:400円	KIGS 職員	20名
8月5日 10:00～12:00	「硬貨を仕分け！ころころ貯金箱を作ろう」 デジタル工房 参加費:300円	KIGS 職員	17名
8月5日 14:00～16:00	「硬貨を仕分け！ころころ貯金箱を作ろう」 デジタル工房 参加費:300円	KIGS 職員	19名
8月12日 10:00～12:00	「はらはらビー玉迷路を作ろう！」 デジタル工房 参加費:300円	KIGS 職員	24名
8月12日 14:00～16:00	「はらはらビー玉迷路を作ろう！」 デジタル工房 参加費:300円	KIGS 職員	23名
8月13日 10:00～12:00	「ふわふわポーチを作ろう！」 デジタル工房 参加費:300円	KIGS 職員	18名
8月13日 14:00～16:00	「ふわふわポーチを作ろう！」 デジタル工房 参加費:300円	KIGS 職員	18名
8月19日 10:00～16:00	館外 フクオカグロースネクスト(旧福岡市大名小学校) ワークショップコレクション in 福岡 「曲がる板で？ペンスタンドづくり！」 参加費200円	KIGS 職員	98名
8月20日 10:00～16:00	館外 フクオカグロースネクスト(旧福岡市大名小学校) ワークショップコレクション in 福岡 「曲がる板で？ペンスタンドづくり！」 参加費200円	KIGS 職員	92名
8月22日 9:30～15:00	「えんぴつで！？ぴろぴろ鳴らそう！RCドレミ」 デジタル工房 参加費:300円	KIGS 職員	17名
8月23日 9:30～15:00	「えんぴつで！？ぴろぴろ鳴らそう！RCドレミ」 デジタル工房 参加費:300円	KIGS 職員	18名
8月25日 10:00～17:00	館外 西日本総合展示場新館 北九州ゆめみらいワーク 「ねじねじミサンガキーホルダー」 参加費:無料	KIGS 職員	183名
8月26日 10:00～16:00	館外 西日本総合展示場新館 北九州ゆめみらいワーク 「ねじねじミサンガキーホルダー」 参加費:無料	KIGS 職員	181名
8月26日 10:00～12:00	「硬貨を仕分け！ころころ貯金箱を作ろう」 デジタル工房 参加費:300円	KIGS 職員	22名
8月26日 14:00～16:00	「硬貨を仕分け！ころころ貯金箱を作ろう」 デジタル工房 参加費:300円	KIGS 職員	19名
8月27日 10:00～12:00	「ふわふわポーチを作ろう！」 デジタル工房 参加費:300円	KIGS 職員	15名
8月27日 14:00～16:00	「ふわふわポーチを作ろう！」 デジタル工房 参加費:300円	KIGS 職員	13名
10月21日 10:00～16:00	館外 水巻町みどりんばあーく 第18回水巻町コスモスまつり 「ねじねじミサンガキーホルダー」 参加費:無料	KIGS 職員	374名
10月28日 10:00～12:00	「硬貨を仕分け！ころころ貯金箱を作ろう」 デジタル工房 参加費:300円	KIGS 職員	19名
10月28日 14:00～16:00	「硬貨を仕分け！ころころ貯金箱を作ろう」 デジタル工房 参加費:300円	KIGS 職員	23名
11月10日 10:00～12:00	「カラフルな乾漆パーツアクセサリ&拭き漆コースター」 デジタル工房 参加費:1000円	大網拓真／FabLab SENDAI-FLAT	9名
11月10日 14:00～16:00	「カラフルな乾漆パーツアクセサリ&拭き漆コースター」 デジタル工房 参加費:1000円	大網拓真／FabLab SENDAI-FLAT	6名
11月11日 10:30～17:00	館外 黒崎商店街 黒崎子ども商店街2017「モンスター キーホルダー製作」 参加費:無料(20円募金)	KIGS 職員	179名
11月18日 17:30～20:00	館外/JICA九州 八幡駅前イルミネーションイベント 「ねじねじミサンガ制作」 参加費:無料	KIGS 職員	68名

1月27日 10:00～12:00	「ハンドル回すと上下に動く！からくり工作」 デジタル工房 参加費:500 円	KIGS 職員	12 名
1月27日 14:00～16:00	「ハンドル回すと上下に動く！からくり工作」 デジタル工房 参加費:500 円	KIGS 職員	17 名
2月10日 10:00～12:00	「ハンドル回すと上下に動く！からくり工作」 デジタル工房 参加費:500 円	KIGS 職員	14 名
2月10日 14:00～16:00	「ハンドル回すと上下に動く！からくり工作」 デジタル工房 参加費:500 円	KIGS 職員	16 名
2月24日 10:00～12:00	「ハンドル回すと上下に動く！からくり工作」 デジタル工房 参加費:500 円	KIGS 職員	20 名
2月24日 14:00～16:00	「ハンドル回すと上下に動く！からくり工作」 デジタル工房 参加費:500 円	KIGS 職員	17 名
3月25日 10:00～16:00	「春のわくわくワークショップまつり」 1. 予約制「ロボットプログラミング」 45名 「未来のひみつ道具」 41名 「はんだづけLED」 42名 「ハサミチョキチョキ飛び出すカード」 78名 「スノードーム」 18名 2. 当日自由参加「木工パズル」 89名 「モーター持久コマ」 109名 「ダンボール紙相撲」 64名 「積み木」 148名 「木のおもちゃショー」 206名 「スタンプデコしおり」 354名 「モンスターキーホルダー」 140名	イーケイジャパン、 FabLab 山口・大分、 木のおもちゃ工房あおむし、 ものづくり工房技術室、 ヒューマンアカデミーロボット教室、 TOTO(株)	1,334 名

計 3,105 名

(6)東田サマースクール 2017 *参加人数は、KIGS 利用日（1、4 日目）のみの合計

開催日	内 容	参加人数
第 1 期 7 月 25 日～28 日	1 日目 北九州イノベーションギャラリー 工房工作、企画展、映像、企画展、高炉	延べ 49 名
第 2 期 8 月 1 日～4 日	2 日目 環境ミュージアム・・・展示見学・エコ工作教室等 ※教育Pカウント外 3 日目 いのちのたび博物館・・・化石レプリカ作成・博物館見学等 ※教育Pカウント外	延べ 50 名
第 3 期 8 月 8 日～11 日	4 日目 北九州イノベーションギャラリー デジタル工作、修了式	延べ 49 名

計 148 名

(7)東田たたらプロジェクト 2017(市民たたら) *企業有志、学生チームも同時操業

今回の操業は 3 釜で実施した。また、3 月 18 日の製品化イベントでは、「せごどん大砲型ペンスタンド」を製作した。作業工程や手作業を充実させたアイテムを考案した。

開催日時	内 容	詳 細	参加人数
11 月 26 日 8:00～17:00	本操業(東田第一高炉にて)	「親子製鉄本操業体験」 親子 65 名、企業 13 名、学生 22 名、 他 27 名 (ケラ製造量 赤班:4.73kg 黄班:6.44kg 緑班:4.48 kg)	127 名
3 月 18 日 13:00～16:00	製品化(工房にて)	「せごどん大砲型ペンスタンド」 タップ、加工、組立を体験	57 名

計 184 名

(8)イノベーション見学ツアー

世界遺産に登録された施設や産業遺産、文化施設を巡る見学ツアーを催行。タイガートラベルのバスを利用した。

開催日	内 容	参加人数
第 1 回 6 月 27 日	「木工の町、大川の家具工房と小保・榎津の町並みを巡るツアー」 関家具、大川 TERAZZA、小保・榎津地区 対象:一般 参加費:5,000 円	29 名
第 2 回 10 月 15 日	「普段は見られないレトロ建築探索ツアー」 三宜楼、ゲストハウス TunneL、九州工業大学 cobaco、金鍋 対象:一般 参加費:高校生以上 3700 円、小学 4 年生～中学生 2700 円 講師:徳田光弘/九州工業大学准教授	21 名

第3回 11月30日	「旧蔵内邸と豊前国分寺跡～京築の歴史薫る史跡めぐりツアー」みやこ町歴史民俗博物館、黒門、思永館、豊前国分寺跡と三重塔、船迫窯跡公園、旧蔵内邸、本庄の大楠 対象：一般 参加費：4,500円	23名
特別編 1月24日	「冬企画展：地域ものづくりリレー展 未来を見つめる高校生の作品展見学特別編」企画展、高炉、眺望スペース 対象：小倉工業高等学校 参加費無料	40名
特別編 1月25日	「冬企画展：地域ものづくりリレー展 未来を見つめる高校生の作品展見学特別編」企画展、高炉 対象：苅田工業高等学校 参加費無料	37名
特別編 1月26日	「冬企画展：地域ものづくりリレー展 未来を見つめる高校生の作品展見学特別編」企画展、高炉、眺望スペース 対象：八幡工業高等学校 参加費無料	40名
第4回 3月8日	「普段は見られない古賀市工場見学バスツアー」増田桐箱店、日本食品、左衛門、ニビシ醤油 対象：一般 参加費：4,000円	30名

計 220名

(9)中学生向けワークショップ

①中学生企業訪問ワークショップ

部活を基盤に声かけし、夏休みに実施。館に縁遠い中学生普及テコ入れの一環として実施した。

開催日	内 容	参加校	参加人数
8月4日	「安川電機」の企業工場見学、KIGS 企画展、工作体験実施	田原中学校科学部	28名

②中学生インターンシップ

中学生向けに接客練習や業務体験を実施した。

開催日	内 容	参加校	参加人数
12月6日	10:00～15:15 施設紹介、接客練習、業務体験	枝光台中学校	6名
12月7日	10:00～15:15 業務体験、団体対応、工作補助	枝光台中学校	6名

計 40名

(10)高校生向けインターンシップ

普通高校にはマナー研修や業務体験を行い、工業高校には旋盤や溶接等の基本技能を実際の製品作りでどう活用するか、実践的な作業を多数経験できるようにした。

開催日	参加校	内 容	参加人数
8月24日 ～27日	戸畑工業高等学校機械科	安全講習、技能実習、製品作り 旋盤、溶接などの実技を主体にマイスターも講師に交え 実践的な作業体験 ＊3名×4日間実施、1日目は4人	13名
10月5日 ～6日	若松高等学校	1日目 9:30～16:00 施設説明、マナー研修、業務体験 5名 2日目 9:30～16:10 図書管理、業務体験、団体対応、 工作補助 5名 ＊5名×2日間	10名
12月12日 ～15日	戸畑工業高等学校機械科2年生	安全講習、技能実習、製品作り、旋盤、溶接などの実技を 主体にマイスターも講師に交え実践的な作業体験 ＊4名×4日間実施	16名

計 39名

(11)「世界一行きたい科学広場 in 北九州 2017」

東田3館および市内中学校、高校、近隣との連携イベントとして実施した。

＊全館・芝生広場にて実施(他館の来場者は除く)

開催日	内 容	共催団体名	参加人数
8 月 19 日	①「プロとデザインする！MY置時計」 北九州総合デザイナー協会(KDA) 10:00～15:00 ワークスタジオB 15名(有料数:15名) 参加費:1,500 円 ②「実験～プラスチックって、なに」 積水化学工業㈱ 10:00～11:30、14:00～15:30 工房 62 名 参加費無料 ③「かわいいポップアップカード作り」小倉工業高等学校 11:00～12:00 多目的スペース 27 名(有料数:12 名) 参加費:100 円 ④「LEDランプの色いろ実験器作り」小倉工業高等学校 14:00～15:00 多目的スペース 28 名(有料数:12 名) 参加費:300 円 ⑤「キミが未来の宇宙飛行士だ！」 渡辺勝巳／日本宇宙フォーラム 13:00～14:00 プレゼンテーションスタジオ 53 名 参加費無料 ⑥「3Dクラフトワーク～木製飛行機模型作り」 セーリングシップ 14:00～15:30 オープンスペース 24 名(有料数:12 名) 参加費:800 円 ⑦館外 イオン「ロボット操作体験」 北九州工業高等専門学校 123 名 参加費無料	小倉工業高等学校 北九州総合デザイナー協会(KDA) 日本宇宙フォーラム 積水化学工業(株) 帆船模型倶楽部セーリングシップ 北九州工業高等専門学校	332 名
8 月 20 日	10:00～15:00 館内、芝生広場、参加費無料 ①大集合！じっけん・たいけん・ものづくり」 サイエンスショー 277 名 東筑紫学園高等学校、小倉高等学校 P スタ ②空中コマ&紙ヒコーキ 191 名、ロボット操作 113 名 北九州工業高等専門学校 多目的スペース ③移動式古紙リサイクル工場車 129 名、 地震体験車174名 芝生広場 ④技の達人ネーム刻印 68 名、まごじ凧 100 名 ラウンジ ⑤ペットボトル工作 戸畑工業高等学校 260 名 オープンスペース (ペットボトルロケット発射デモ) 宇宙少年団 ラジコン操作、氷彫刻、戸畑工業高等学校書道	SSH(スーパーサイエンスハイスクール) 指定校 東筑紫学園高等学校 照曜館中学校 戸畑工業高等学校 小倉高等学校 北九州市消防局 大石産業㈱ 技の達人	1,312 名
8 月 20 日	10:00～15:00 館外 イオン八幡東店 北九州総合デザイナー協会(KDA) ①「MYオリジナルデコレーションペットボトルキャップ 作り」参加費無料 266 名 ②「エコはがき作り」 参加費:100 円 61 名(有料数:25 名)	北九州総合デザイナー協会(KDA)、 KIGS職員	327 名

計 1,971 名

(12)実践型インターシップ 大学生向け

開催日	内 容	参加校	参加人数
8 月 15 日、 16 日、17 日、 18 日、19 日	KIGS 実践型インターンシップ 「工房にて講習、工作指導訓練」 8:40～17:20	北九州工業高等専門学校 4 名	20 名

計 20 名

(13)3 館連携事業

開催日時	内 容	講 師	参加人数
5月6日	10:00～12:00、13:00～15:00 イオン八幡東店 「モンスターキーホルダーを作ろう」 参加費用:10円(熊本地震義捐金寄付 寄付金:1,160 円)	KIGS 職員	428 名
7月 23 日	13:00～14:30 工房、企画展示室 「えいご de Summer School」北九州市環境ミュージアム 工房工作(ペーパーウエイト)200円、企画展	北九州市環境ミュージアム	58 名
1 月 26 日	15:00～17:00 ワークスタジオ B 「平成29年度東田3館(女性職員)研修会」	熊谷 美佐子 ／FM KITAQ 代表取締役	10 名

計 496 名

(14)その他プロジェクト

開催日	内 容	参加者、実施場所	参加人数
9 月 17 日	13:00～20:00 館外 「未来を探すプロジェクト」	福岡県内高校生 福岡県立北九州ふれあいの家	113 名
9 月 21 日	13:00～17:00 館外 「北九州キャリア教育研究会」	富野小学校	39 名
10 月 10 日	13:00～17:00 館外 「北九州キャリア教育研究会」	深町小学校	33 名
10 月 24 日	13:00～17:00 館外 「北九州キャリア教育研究会」	北筑高等学校	36 名
11 月 13 日	13:00～17:00 館外 「北九州キャリア教育研究会」	竹末小学校	28 名
12 月 16 日	13:00～17:00 館外 「北九州キャリア教育研究会」	洞北中学校	139 名
2 月 6 日	13:00～17:00 館外 「北九州キャリア教育研究会」	牧山中学校	52 名

計 440 名

4 個人、団体向け教育プログラム

(1)個人向けプログラム

①ものづくりミニ体験

開催月	回数	内 容	参加人数
4 月	2 回	「デコって楽しい☆カラフルキーホルダー」	6 名
	5 回	「ベニヤ板でつくるペンスタンド」 ※春企画展連動	27 名
5 月	11 回	「ベニヤ板でつくるペンスタンド」 ※春企画展連動	123 名
6 月	8 回	「ベニヤ板でつくるペンスタンド」 ※春企画展連動	98 名
7 月	4 回	「ベニヤ板でつくるペンスタンド」 ※春企画展連動	54 名
	10 回	「トリックカードをつくろう」・「グルグルキューブをつくろう」 ※夏企画展連動	302 名
8 月	29 回	「トリックカードをつくろう」・「グルグルキューブをつくろう」 ※夏企画展連動	866 名
9 月	9 回	「トリックカードをつくろう」・「グルグルキューブをつくろう」 ※夏企画展連動	149 名
10 月	1 回	「トリックカードをつくろう」・「グルグルキューブをつくろう」 ※夏企画展連動	18 名
	6 回	「ほのかに香る芳香剤作り」 ※秋企画展連動	223 名
11 月	10 回	「ほのかに香る芳香剤作り」 ※秋企画展連動	258 名
12 月	6 回	「ほのかに香る芳香剤作り」 ※秋企画展連動	185 名
	2 回	「ほのかに香る芳香剤作り(クリスマス版)」	20 名
1 月	9 回	「ミニペーパーウエイト作り」	117 名
2 月	9 回	「ミニペーパーウエイト作り」	91 名
3 月	7 回	「オリジナル缶バッジ作り」	94 名
	6 回	「タイムカプセル缶」	47 名

計134回 2,678名

②デジタル工房 見学会

開催月	回数	内容	参加人数
10月	2回	入会前の事前説明会(デジタル工房利用手順及び各マシンの性能)	4名
12月	2回	入会前の事前説明会(デジタル工房利用手順及び各マシンの性能)	2名
1月	2回	入会前の事前説明会(デジタル工房利用手順及び各マシンの性能)	3名
2月	1回	入会前の事前説明会(デジタル工房利用手順及び各マシンの性能)	2名
3月	1回	入会前の事前説明会(デジタル工房利用手順及び各マシンの性能)	3名

計8回 14名

③デジタル工房 機材利用講習会

開催月	内容	3Dプリンター	レーザーカッター
4月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	0名	2名
5月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	0名	2名
6月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	1名	5名
7月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	3名	4名
8月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	0名	3名
9月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	1名	1名
10月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	0名	2名
11月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	0名	1名
12月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	0名	4名
1月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	3名	2名
2月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	2名	2名
3月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	1名	3名

3Dプリンター 計11名

レーザーカッター 計31名

④デジタル工房 ミニデジタル工作教室

開催月	回数	内容	参加人数
12月	3回	「アクリルオーナメント作り」	12名

計3回 12名

(2)企業団体向けプログラム

開催月	主な団体	団体数	参加人数
4月	山九株式会社、大光炉材株式会社、日本鋳鍛鋼株式会社	4団体	53名
5月	富士岐工産株式会社	1団体	4名
6月	大和リゾート株式会社、新日鉄住金化学労働組合	2団体	32名
7月	株式会社ゼンリン、パナソニック株式会社山口営業所	4団体	165名
9月	新日鉄住金株式会社八幡製鐵所、株式会社安川電機	2団体	100名

10 月	黒崎播磨株式会社	1 団体	17 名
3 月	山九株式会社八幡支店安全衛生協力会	1 団体	36 名

計 15 団体 407 名

(3)一般団体向けプログラム

開催月	主な団体	団体数	参加人数
4 月	福岡県立東筑高等学校同期会、お里の家きらめき本城	4 団体	78 名
5 月	株式会社読売旅行久留米営業所、小倉第一病院	14 団体	306 名
6 月	竹末まちづくり協議会、唐津商工会議所青年部	6 団体	199 名
7 月	KITA(北九州国際技術協力協会)	1 団体	7 名
8 月	北九州市立泉台市民センター、北九州市立中原児童館	3 団体	113 名
9 月	放送大学福岡学習センター、春日市商工会女性部	8 団体	227 名
10 月	片島小地域福祉活動（京都郡）、デイサービスゆうわ（芦屋）	8 団体	138 名
11 月	香月・楠橋・池田・千代地区小地区公民館合同研修、 中央出版株式会社	7 団体	205 名
12 月	筑紫法人会女性部会、北九州市立平野市民センター	5 団体	178 名
1 月	九州工業大学理数教育支援センター、日根野土地改良区（大阪）	4 団体	115 名
2 月	北九州市立年長者研修大学校穴生学舎	1 団体	30 名
3 月	池田校区社会福祉協議会、 幼児活動研究会株式会社コスモスポーツクラブ	4 団体	164 名

計 65 団体 1,760 名

(4)学校団体向けプログラム

開催月	主な団体	団体数	参加人数
4 月	北九州市立大学地域創生学群、九州職業能力開発大学校	2 団体	179 名
5 月	佐賀市立諸富中学校、釜山カトリック大学（韓国）	3 団体	182 名
6 月	広島市立観音小学校、福岡県立戸畑工業高等学校	8 団体	635 名
7 月	筑紫台高等学校、北九州市立特別支援学校北九州中央高等学園	5 団体	192 名
8 月	北九州市立湯川中学校、福岡工業大学、港が丘児童クラブ	8 団体	297 名
9 月	福岡県立小倉高等学校、島原市立第一中学校	6 団体	536 名
10 月	北九州工業高等専門学校、大宰府市立水城小学校	12 団体	530 名
11 月	福岡県立鞍手高等学校、北九州市立到津小学校	10 団体	594 名
12 月	東星学園高等学校（東京）、上海包玉剛実験学校（中国）	7 団体	205 名
1 月	立命館アジア太平洋大学（大分）、福岡県立戸畑工業高等学校	7 団体	205 名
2 月	北九州市立藍島小学校、九州工業大学	7 団体	116 名
3 月	北九州市立枝光台中学校	1 団体	128 名

計 76 団体 3,799 名

Ⅲ. 企画展示事業

■春企画展① 磨き抜かれた職人の技「北九州技の達人」展

会 期：2017年1月21日～2017年4月2日 72日間（62営業日）

主 催：北九州市、北九州イノベーションギャラリー

観 覧 料：無料

観覧者数：214名（4月1日～4月2日まで）

長年にわたり技能の研鑽や後進の育成に励み、卓越した技能で"ものづくりのまち北九州"の発展を支えてきた方々を、市が認定・表彰する制度『北九州技の達人』。今回、節目にあたる9回目認定を控え、歴代認定者の作品をスペースの許す限り一堂に介して紹介した。

■春企画展② 木・和・美の技「木創りの道具たち」展

会 期：2017年4月15日～2017年7月9日 96日間（74営業日）

主 催：北九州市、北九州イノベーションギャラリー

協 力：公益財団法人竹中大工道具館、ギャラリーA4、レミングハウス、奥田家具製作所、金澤図工、横山浩司、木彩工房、福岡・大川家具工業会、仁田原建具製作所、大川建具事業共同組合、八女福島仏壇仏具共同組合、九州木材工業(株)、(株)Foreque、山一木材(株)KITOKURAS、(株)鵜工舎、福岡県工業技術センター（順不同）

後 援：福岡県教育委員会、北九州市教育委員会、北九州市PTA協議会、北九州商工会議所、JR九州、西鉄バス北九州（株）

観 覧 料：一般：300円、小中学生：100円、未就学児：無料
（団体30名以上は2割引、障害者割引有り）

観覧者数：3,147名

古来より木の機能美を活かした様々なものづくりの中に、その伝統が脈々と引き継がれ、更なる発展につながっている。竹中大工道具館のご協力で、日本に伝わる"木のものづくり"で"技"を極めるための道具など約340点を展示した。

■夏企画展 「Dr.伊藤文人のトリックイリュージョン研究所」

会 期：2017年7月22日～2017年10月1日 72日間（67営業日）

主 催：北九州市、北九州イノベーションギャラリー

後 援：北九州市教育委員会、北九州市PTA協議会、北九州商工会議所、JR九州、西鉄バス北九州（株）

企画監修：伊藤文人

企画協力：(株)風雅舎

企画制作：東映(株)

観 覧 料：一般：500円、小中学生：250円、未就学児：無料

(団体 30 名以上は 2 割引、障害者割引有り)

観覧者数：7,351 名

『イマジネーション(想像力)は知識よりも重要である。』アインシュタインの残したことばである。「なぜ?」「なに?」「もしかしたら?」と、自分の感性で考えてみる。そうすると、今まで見えなかった世界が見えてくる。驚きと発見と感動に満ちた世界を楽しむことで、感性と想像力、考える力を育くむ展示となった。

■秋企画展 「香りのふしぎ展」

会 期：2017 年 10 月 14 日～2017 年 12 月 17 日 65 日間 (56 営業日)

主 催：北九州市、北九州イノベーションギャラリー

後 援：北九州市教育委員会、北九州市 PTA 協議会、北九州商工会議所、
JR 九州、西鉄バス北九州(株)

協 力：高砂香料工業(株)、香老舗 松栄堂、(株)資生堂・資生堂企業資料館、大分香りの博物館、磐
田市香りの博物館、(株)ユー・エス・イー、入江製菓(株)、
(株)HIROTSU バイオサイエンス、カラクリワークス(株)、九州大学 林健司研究室、
東京農工大学 石田寛研究室、大阪大学 佐藤宏介研究室、北九州工業高等専門学校
滝本隆研究室 (順不同)

観 覧 料：一般：300 円、小中学生：100 円未就学児：無料

(団体 30 名以上は 2 割引、障害者割引有り)

観覧者数：5,263 名

良い香り、懐かしい匂い、臭いニオイ等々、そもそも香りとはどうして感じるのか?何のためにあるのか?どんなしくみなのか?今まで知らなかった香りの役割や、未来へとつながる技術などを体験、紹介した。

■冬企画展① 「地域ものづくりリレー展」

会 期：2018 年 1 月 20 日～2018 年 3 月 11 日 51 日間 (36 営業日)

「未来を見つめる高校生の作品展」：1 月 20 日(土)～1 月 28 日(日)9 日間 (8 営業日)

「未来へ拓がる企業技術展」2 月 3 日(土)～2 月 18 日(日)16 日間 (14 営業日)

「デザイン×表現の進化」：2 月 24 日(土)～3 月 11 日(日)16 日間 (14 営業日)

主 催：北九州市、北九州イノベーションギャラリー

後 援：九州経済産業局、福岡県教育委員会、北九州市教育委員会、北九州市 P T A 協議会、
北九州商工会議所、J R 九州、西鉄バス北九州(株)

出展高校：「未来を見つめる高校生の作品展」：戸畑工業高等学校、福岡工業高等学校、筑紫台高等学校、
福岡工業大学附属城東高等学校、浮羽工業高等学校校、三池工業高等学校、
小倉工業高等学校、八女工業高等学校、八幡工業高等学校、荻田工業高等学校、

田川科学技術高等学校、香椎工業高等学校、嘉穂総合高等学校、博多工業高等学校、
真颯館高等学校（順不同）

出展企業：「未来へ広がる企業技術展」：シャボン玉せっけん株式会社、桑原電工株式会社、
九州鉄道機器製造株式会社、株式会社タカギ、有限会社宮川洋蘭、楽しい株式会社、
株式会社七尾製菓、株式会社タック技研工業、有限会社小倉クリエーション、
宝石・めがねのヨシダ、株式会社石川鉄工所、バルセイユ株式会社、
株式会社シノハラ製作所、株式会社加藤建築事務所、株式会社ふく太郎本舗、
熱産ヒート株式会社、株式会社マツシマメジャテック、計測検査株式会社
「デザイン×表現の進化」株式会社アド・ベン・コーポレーション、株式会社シェルパ、
株式会社スタジオ・デジタルプラス、有限会社ネギ・プロ、ピー・アンド・エル、（順不同）

観 覧 料：無料

観覧者数：3,583 名

ものづくり界の未来を見据えた取り組みについて、作品展示を中心に三部門（学校→企業→デザイナー）
のリレー形式で紹介した。工業系の高等学校生の作品展示や、地元各界のたゆまざる精進や品質向上を
目指すその過程などを幅広い年代のお客様に披露する場となった。

■冬企画展② 「～遊ぶ・学ぶ・作る～暮らしを包むパッケージ展」

会 期：2018 年 3 月 24 日～2018 年 7 月 1 日 100 日間（86 営業日）

主 催：北九州市、北九州イノベーションギャラリー

後 援：北九州市教育委員会、北九州市 PTA 協議会、北九州商工会議所、
JR 九州、西鉄バス北九州(株)

協 力：大石産業株式会社、TOTO 株式会社、株式会社日栄紙工社、ヤマト包装技術研究所、
容器文化ミュージアム、株式会社舟崎薬品、昭和ロマン蔵、平川産業株式会社、
グランド印刷株式会社・ARMS、新日本ホームズ株式会社・falo 大濠、媛福丸、
株式会社井筒屋、宮井株式会社、株式会社廣貫堂、公益社団法人日本包装技術協会、
クサボン（順不同）

観 覧 料：一般：300 円、小中学生：100 円未就学児：無料

（団体 30 名以上は 2 割引、障害者割引有り）

観覧者数：464 名（3 月 24 日～3 月 31 日まで）

包んで安全に届けことが目的である包装技術。生活に必須となっている、包装の歴史と技術革新に着
目した。食品鮮度保持機能が高ければ食品の販路拡大につながり、デザインで商品の紹介ができれば包
装で PR ができ、取扱いを容易にすれば生活が便利になる。これらの知恵と未来の包装技術を紹介した。

IV.調査研究事業

調査研究事業は、

- ◆当館の設立目的のひとつに産業技術の保存継承と人材育成がある。産業技術を理解するには、現物だけでなく個々の技術に秘められた創意工夫や技術者の思い、社会や文化が技術革新に与えた影響、更には技術革新が社会に与えた影響などを後世に伝える必要がある。
- ◆北九州を中心として技術革新の歴史を調査記録し、公開することで北九州の企業が技術革新に果たした役割についてまとめ、理解を深める。
- ◆今進めなければ消滅する可能性のある、すなわち緊急性の高いテーマを優先することを基本方針として調査・研究を行う。

実行にあたっては、

- ① 地域の持つ技術力の活用という観点から、企業、大学、地元技術士会などに協力を仰ぐ
- ② これまでに培われたネットワークを最大限に活用する

ことを念頭におき、「地元企業への委託研究」、「北九州地区技術士会への委託研究」、「大学への委託研究」「国立科学博物館との共同研究」を実施した。

1 「北九州におけるレベル計測技術の歴史と発展」の調査・研究

1901(明治34)年の官営八幡製鐵所の操業開始により日本の近代的な鉄生産が本格化した。北九州は、この製鉄業を嚆矢として、窯業、化学工業、セメント工業などの素材産業および装置産業等の集積地に発展し、北九州工業地帯と呼ばれ、日本の高度成長期を支えてきた。重厚長大の産業規模が縮小してきたとはいえ、現在でも北九州を拠点とし発展している老舗企業は数多く、その一つに株式会社マツシマメジャテックがある。

今年度は、戦後間もない1946(昭和21)年に松島秀雄によって設立された株式会社マツシマメジャテックを取上げ、同社の基幹技術である「レベル計測技術」を調査研究することとした。また、この独自技術の発展と密接に関係している同社の経営、事業の歴史も併せて調査している。

調査研究期間：平成28年9月～平成29年12月

研究体制：当館調査研究部門の企画、監修のもと、(株)マツシマメジャテックに調査研究を委託。

2 「北九州における鍛造技術の歴史と発展」の調査・研究

北九州で1901(明治34)年に官営八幡製鐵所が創業し近代製鉄の幕を開いた歴史を踏まえ、当館では、これまで製鉄あるいは鉄(金属)に関する調査研究を開発依頼実施してきた。開館初年度から実施した「八幡製鐵所の設備・技術の変遷」シリーズや、近年では「溶接技術」「表面処理技術」「鍛造技術」について調査研究している。

今年度は、鉄等の金属製品の製造に欠かせない塑性加工技術である「鍛造技術」を取り上げ、北九州および筑豊・直方に位置する企業が長年にわたって培ってきた独自の技術、製品について調査研究することとした。合わせて調査対象企業の発展の歴史についても触れている。

調査研究期間：平成28年10月～平成29年12月

研究体制：当館調査研究部門の企画、監修のもと、ミヤタハイメック品質技術研究所(技術士)に調査研究を委託

3 「金型技術」の系統化調査

今年度の技術の系統化調査は、プレス用金型の中の「モータコア打抜き金型」について実施した。モータは私たちの身の回りでなくてはならない製品であり、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、換気扇など多くの家電製品で使用されている。また、あらゆる産業機械においてもモータは欠くことのできない動力装置である。我が国は国内生産、海外生産を含めたモータの生産台数において、世界でトップレベルの生産国である。その生産台数の増大を裏で支えたのが高品質な金型を需要に応じて大量供給できた金型メーカーの存在である。

本調査では、ヤスリ仕上げによる製作から機械化、自動化による金型製作および技術開発についてまとめた。本調査は国立科学博物館との共同研究として実施したものである。

調査研究期間：平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

研究体制：国立科学博物館との共同研究

V. 図書・映像等の収集、制作、公開事業

当施設の設立目的に沿った図書及び映像の収集に努めた。また、その公開を積極的かつ迅速に実施することにより、来館者に対して量的・質的向上とサービスアップを図った。

1 図書・資料の収集

新規発行の科学・技術読物、企画展及び各種講座やフォーラムに関連する書籍、定期刊行物(新聞・雑誌)などに分類し、多分野に亘って幅広く購入した。また、種類別のコーナーを区分してわかりやすく一般へ公開した。

＜平成 29 年度購入実績＞ 1,028 冊（書籍 673 冊、雑誌 355 冊）

＜平成 29 年度寄贈受入実績＞ 116 冊（社内報 53 冊、報告書等 67、一般書等 19 冊）

2 ライブラリーの運営

来館者に対し、公平で良質なライブラリーサービスを提供しながら、利用者の研究や学習の支援に取り組んだ。

◆サービス向上に取り組んだ内容

- ホームページに各月の新着本情報を掲載するとともに、メルマガ会員に向けて KIGS Letter を月 1 回程度配信するサービスを引き続き実施し、利用者の興味を引き、利用頻度向上につなげた。
- 子供向けの科学読物、図鑑、絵本などを積極的に購入し、イベントなどで来館する子供たちの興味を引き、館内閲覧や貸出を増加させた。
- 企画展や館内でのイベントにあわせ、来場者の興味を引きそうな図書をライブラリー入口に配架し、利用促進を促した（特に子供向け）。その効果などによりライブラリー会員登録者数、貸出書籍数が昨年度より増加した。
- 企画展観覧目的で来館された一般利用者に、企画展に関連する知識を得ていただくために、昨年度同様、ライブラリー入口付近に「企画展関連図書コーナー」を設けた。
- 読書週間(10 月 27 日（金）～11 月 9 日（木）)に貸出利用者を対象に貸出バッグを進呈するキャンペーンを行った。今回も、告知はがきをライブラリー会員に送付し、利用促進を図った。その結果、通常期より貸出件数が増加した。
- 館内の簡単なクイズラリーを子供向けに実施し、景品としてノベルティを進呈した。その結果、ライブラリーへの立ち寄りの増加が図れた。

◆利用者の声

- 小学校の教育課程でプログラム学習が組み込まれる予定になっているので、プログラムに関する書籍を増やしてほしいとの声が寄せられ、今後、教育普及と連携しながら書籍を増やしていく予定である。
- 充実した科学、技術分野の読物が多くあり、市民にもっと P R して利用者を増やすべきとの意見が寄せられている。ホームページやメルマガジンでの紹介を強化していく。
- 新聞や雑誌等で紹介された書籍を置いてほしいとの要望が出されたので、科学、技術、デザイン関連書籍については、新聞、雑誌をチェックして利用者の要望に応えていく。

- 子供向けの書籍をもっと増やしてほしいとの要望も寄せられたため、科学や技術に限らず子供向け図書を増やしていく。

《ライブラリー利用者数》年間利用者数：6,033 人、月平均：503 人

※前年度年間利用者数：4,655 人(月平均 388 人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	318	460	297	519	1334	398	471	548	398	409	342	539	6,033

《ライブラリー会員数》年間登録者数：243 名 ※前年度 157 名

月	前年繰越	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	退会	合計
人数	1192	10	21	9	29	65	10	33	8	7	17	9	25	3	1,432

《貸出利用回数》年間貸出回数：1,450 回(ライブラリー利用者の約 24%)

※前年度貸出回数：1,018 回(ライブラリー利用者の約 22%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
回数	89	89	84	138	192	99	164	164	121	97	101	112	1,450

《貸出利用冊数》年間貸出冊数：年間 4,350 冊(1 回平均 3 冊)

※前年度貸出冊数：年間 2,954 冊(1 回平均 2.9 冊)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
冊数	239	257	258	421	599	336	467	447	396	296	283	351	4,350

3 映像の制作及び収集等

(1)映像の制作

北九州市が認定した「北九州オンリーワン企業」4 社の独自技術、製品を、一般市民にも分かり易い技術革新物語として制作した（日・英・中・韓の 4 カ国語）。

- ・制作作品： 輝くキタキュウのプロダクツ 1 ～北九州オンリーワン企業物語（約 30 分）
- ・作品概要： 北九州市が認定する「北九州オンリーワン企業」。その企業が独創的かつ確かな技術で生み出したオンリーワン商品。市場、顧客に寄り添いオンリーワンに挑んだ技術者たちの熱い思いと特徴ある商品の本質に迫った技術革新物語である。

(2)映像の収集(5 作品)

寄贈映像(5 作品) DVD

映像タイトル	映像分野	企画会社名	時間(分)	制作年
確かな翼で空を飛ぶために	その他	(財)日本宇宙フォーラム	6	2017
空へ宇宙へ JAXA2016-2017	その他	(財)日本宇宙フォーラム	3	2017
金井宇宙飛行士、長期滞在開始！お医者さん、宇宙へ Vol.1	その他	(財)日本宇宙フォーラム	6	2018
準天頂衛星システム「みちびき」プロモーション映像	その他	(財)日本宇宙フォーラム	7	2017
準天頂衛星「みちびき」紹介ビデオ	その他	(財)日本宇宙フォーラム	6	2017

(3)映像の公開

平成 28 年度に製作した「鉄の進化を支えた炉材革命」（約 26 分）について、7 月の市民セミナーで取り上げ一般公開した。また、TEPIA 先端技術館に寄贈し、同館のビデオライブラリーに

登録されインターネット経由で一般視聴できるようにした。

その他保有映像は、当館への訪問団体に向け、個別にプログラムした映像の上映を積極的に行った。